

## ILSI Japan 活動報告<2023>

### 食品安全研究会

#### 【食品微生物研究部会】

活動ビジョン・ゴール	年度目標
<p>食品産業会が抱える食品微生物関連の共通課題を、部会員が協同で（企業の枠を超えて）研究し解決を目指す。</p> <p>食品関連企業の微生物担当者が業務上の悩みや課題を相談・共有し相互解決できる場として機能する。</p> <p>当部会の研究成果を含む食品微生物に関する安全性等の情報について、広く周知活動を行う。</p>	<p>部会員が集まり定期的に交流や情報交換を行える場としての部会運営の再整備（アフターコロナ対応としての集まる場の整備）</p> <p>新規研究プロジェクトの立案および他機関との積極的な連携の実施</p>

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2 月	<p>分科会活動</p> <p>(1)芽胞菌研究分科会 ・進捗なし。</p> <p>(2)MALDI-TOF MS 研究分科会 ・進捗なし。</p> <p>(3)チルド勉強会</p> <p>a. ボツリヌス菌接種試験活動 ・活動なし（追加試験について日本缶詰びん詰レトルト食品協会にて調整中）。</p> <p>b. 耐熱性試験法検証活動 ・第4弾試験（複数企業で調製した芽胞液による耐熱性試験）結果共有打合せ（1/27, Web 開催）実施。打合せ後、対外発表に向け取りまとめる方向性で参加各社の了承を得た。</p> <p>(4)国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会 ・以下の読み合わせおよび和訳を継続実施中。 FAO/WHO Microbiological Risk Assessment Series 24 "Statistical Aspects of Microbiological Criteria Related to Foods"</p>	<p>各分科会の研究活動に加え、各社が共通に抱える食品微生物関連の課題について、部会全体でのディスカッションおよび関連団体等との連携を通じ、課題抽出と解決策の検討を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（公社）日本缶詰びん詰レトルト食品協会</li> <li>・（独）製品評価技術基盤機構</li> </ul>

<p>3, 4 月</p>	<p>分科会活動  (1) 芽胞菌研究分科会  ・進捗なし。  (2) MALDI-TOF MS 研究分科会  ・進捗なし。  (3) チルド勉強会  a. ボツリヌス菌接種試験活動  ・活動なし（追加試験について日本缶詰びん詰レトルト食品協会にて調整中）。  b. 耐熱性試験法検証活動  ・第 4 弾試験（複数企業で調製した芽胞液による耐熱性試験）の考察にあたり、使用芽胞液の芽胞率確認等、追加試験を実施した。結果を取りまとめ中。  (4) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会  ・以下の読み合わせおよび和訳を継続実施中。  FAO/WHO Microbiological Risk Assessment Series 24  "Statistical Aspects of Microbiological Criteria Related to Foods"</p>	<p>各分科会の研究活動に加え、各社が共通に抱える食品微生物関連の課題について、部会全体でのディスカッションおよび関連団体等との連携を通じ、課題抽出と解決策の検討を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（公社）日本缶詰びん詰レトルト食品協会</li> <li>・（独）製品評価技術基盤機構</li> </ul>
<p>5, 6 月</p>	<p>分科会活動  (1)芽胞菌研究分科会  ・活動体制の見直しおよび情報交換を実施中。  ・分科会リーダーの変更（三菱ケミカル 関本訓士）。  (2)MALDI-TOF MS 研究分科会  ・2023 年の連携方針について打ち合わせを実施（5 月 31 日、分科会リーダー（佐藤）のみ参加）。MALDI スペクトルデータの解析技術について情報交換を実施することで合意し、具体的に進めていく予定。  (3)チルド勉強会  a. ボツリヌス菌接種試験活動  ・活動なし（追加試験について日本缶詰びん詰レトルト食品協会にて調整中）。</p>	<p>各分科会の研究活動に加え、各社が共通に抱える食品微生物関連の課題について、部会全体でのディスカッションおよび関連団体等との連携を通じ、課題抽出と解決策の検討を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（公社）日本缶詰びん詰レトルト食品協会</li> <li>・（独）製品評価技術基盤機構</li> </ul>

	<p>b. 耐熱性試験法検証活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第4弾試験考察のため、使用芽胞液における芽胞率確認等の追加データを取りまとめた。</li> </ul> <p>(4)国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以下の読み合わせおよび和訳を継続実施中。</li> </ul> <p>FAO/WHO Microbiological Risk Assessment Series 24 "Statistical Aspects of Microbiological Criteria Related to Foods"</p>		
7, 8月	<p>&lt;分科会活動&gt;</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗無し</li> </ul> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗無し</li> </ul> <p>(3) チルド勉強会</p> <p>a. ボツリヌス菌接種試験活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動なし（追加試験について日本缶詰びん詰レトルト食品協会にて調整中）。</li> </ul> <p>b. 耐熱性試験法検証活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第4弾試験考察のため、芽胞接種量と芽胞形成量の相関データを採取した。</li> </ul> <p>(4) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以下の読み合わせおよび和訳を継続実施中。</li> </ul> <p>FAO/WHO Microbiological Risk Assessment Series 24 "Statistical Aspects of Microbiological Criteria Related to Foods"</p> <p>&lt;全体&gt;</p> <p>10月6日（金）に部会会合および部会勉強会を三菱ケミカル株式会社（横浜市青葉区）にて開催予定。</p>	<p>各分科会の研究活動に加え、各社が共通に抱える食品微生物関連の課題について、部会全体でのディスカッションおよび関連団体等との連携を通じ、課題抽出と解決策の検討を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（公社）日本缶詰びん詰レトルト食品協会</li> <li>・（独）製品評価技術基盤機構</li> </ul>
9, 10月	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月6日に研究部会会合および勉強会を開催（対面およびWebハイブリッド開催、参加者43名）。勉強会</li> </ul>	<p>各分科会の研究活動に加え、各社が共通に抱える食品微生物関連の課題について、部会全体でのディスカッションおよび</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（公社）日本缶詰びん詰レトルト食品協会</li> <li>・（独）製品評価技</li> </ul>

	<p>では下記のお二人の先生にご講義いただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ISO/IEC 17025 について（製品評価技術基盤機構（NITE）認定センター 土屋年史先生）</li> <li>・微生物試験の品質管理について（日本食品分析センター 諸藤圭先生）</li> <li>・食品微生物研究部会主催シンポジウムの開催に向けた準備作業を実施中。</li> </ul> <p><b>【分科会活動】</b></p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月23日に飲料の危害微生物に関する分科会メンバー間の情報交換会を開催（Web）。</li> </ul> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗無し</li> </ul> <p>(3) チルド勉強会</p> <p>a. ポツリヌス菌接種試験活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動なし（追加試験について日本缶詰びん詰レトルト食品協会にて調整中）。</li> </ul> <p>b. 耐熱性試験法検証活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動なし（検証試験の対外発表に向け、結果を取り纏め中）。</li> </ul> <p>(4) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以下の読み合わせおよび和訳を継続実施中。</li> </ul> <p>FAO/WHO Microbiological Risk Assessment Series 24 "Statistical Aspects of Microbiological Criteria Related to Foods"</p>	<p>関連団体等との連携を通じ、課題抽出と解決策の検討を行う。</p>	<p>術基盤機構</p>
<p>11, 12 月</p>	<p><b>【全体】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年3月8日にNITEと合同で食品微生物研究部会主催のシンポジウムを開催予定。開催に向けた各種準備作業を実施中。</li> </ul>	<p>各分科会の研究活動に加え、各社が共通に抱える食品微生物関連の課題について、部会全体でのディスカッションおよび関連団体等との連携を通じ、課題抽出と解決策の検討を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（公社）日本缶詰びん詰レトルト食品協会</li> <li>・（独）製品評価技術基盤機構（NITE）</li> </ul>

	<p><b>【分科会活動】</b></p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飲料の危害微生物に関する分科会メンバー間の情報交換会を定期開催中。次回は 1/12 開催予定。</li> </ul> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗無し</li> </ul> <p>(3) チルド勉強会</p> <p>a. ボツリヌス菌接種試験活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動なし（追加試験について日本缶詰びん詰レトルト食品協会にて調整中）。</li> </ul> <p>b. 耐熱性試験法検証活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動なし（検証試験の对外発表に向け、結果を取り纏め中）。</li> </ul> <p>(4) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以下の読み合わせおよび和訳を継続実施中。</li> </ul> <p>FAO/WHO Microbiological Risk Assessment Series 24 "Statistical Aspects of Microbiological Criteria Related to Foods"</p>		
--	--	--	--

## ILSI Japan 活動報告<2023>

### 食品安全研究会

#### 【食品リスク研究部会】

活動ビジョン・ゴール	年度目標
食品の安全性評価の考え方を学び、その普及に努める。	① 食品リスク研究に関する勉強会を 3 回以上開催し、情報発信する。 ② 「ナチュラルミステイク」の情報発信。

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2 月	<p>① 2022 年度勉強会の内容について、「イルシー」誌&lt;フラッシュ・レポート&gt;の原稿を作成した。</p> <p>2/9 (木)勉強会「リスクコミュニケーションにおけるメディアとサイエンス」講師：早稲田大学 田中 幹人 教授を Zoom で開催した。参加者 40 名。</p> <p>2/9(木)に Zoom で部会を開き、勉強会 WG の募集を行った。</p> <p>2023 年後半より、勉強会を開催できるようにしたい。</p> <p>② 「ナチュラルミステイク」をジャーナリストや食品リスク研究者への献本を実施した。</p>	<p>① 2/9 の勉強会についても「イルシー」誌&lt;フラッシュ・レポート&gt;を作成する。</p> <p>勉強会 WG のキックオフミーティングを開催し、スケジュール、テーマを決定していく。</p> <p>② 引き続き、献本を行うとともに、アンケートを実施し、先生方からの情報発信を促す。</p>	<p>・ 早稲田大学</p>
3, 4 月	<p>① 2023 年度の勉強会について WG を組み、オンライン MTG を 2 回開催し、スケジュール、テーマ、講師の案を作成した。</p> <p>② 「ナチュラルミステイク」につき、ジャーナリストや食品リスク研究者への献本を実施した。</p>	<p>① 講師の方々と調整し、勉強会のスケジュールを決定していく。</p> <p>② 献本先の先生方にアンケートを実施し、情報発信につながったかを確認する。</p>	
5, 6 月	<p>5 月 25 日 (木) に部会を Zoom で開催した。</p> <p>① 2023 年度の勉強会についてオンラインで WG-MTG を 1 回開催し、スケジュール、テーマ、講師の進捗を確認した。</p> <p>② 「ナチュラルミステイク」を献本したジャーナリストや食品リ</p>	<p>① 講師の方々と調整し、勉強会のスケジュールを決定していく。8 月 9 日 (水) 「フードテック (昆虫・培養細胞食品) の安全性の考え方」を、9 月 29 日 (金) 「微生物や微生物を用いた食品の安全性」の勉強会開催を調整</p>	

	<p>スク研究者にアンケートを実施した。</p>	<p>している。</p> <p>② 献本先の先生方に実施したアンケートを集計し、情報発信につながったかを確認する。</p>	
7, 8月	<p>9月6日(水)に部会をWeb開催した。</p> <p>① 8月9日に昭和女子大学近藤一成先生を講師に「フードテックの安全性の考え方」について勉強会をWeb開催し、43名の参加があった。</p> <p>② 「ナチュラルミステイク」献本先の先生からのアンケート回答を確認した。内容に関しては全ての方にご賛同いただいた。</p>	<p>① 第2回勉強会は9月29日に琉球大学の水谷先生を講師に「微生物や微生物を用いた食品の安全性」についてWeb開催予定。第3回については11~12月で日程調整中。</p> <p>② 更なる情報発信のため、アンケートで得られた意見をもとに検討を行う。</p>	
9, 10月	<p>① 第2回勉強会は9月29日に琉球大学の水谷先生を講師に「微生物や微生物を用いた食品の安全性」についてWeb開催。参加者50名。</p> <p>② アンケート結果を参考に更なる情報発信の方法の検討継続。</p>	<p>① 第3回勉強会を11月13日に東北大学名誉教授の山添先生を講師に「安全性評価における薬物相互作用の考え方」でハイブリッド開催予定。</p> <p>② アンケート結果を参考に更なる情報発信の方法の検討継続。</p>	
11, 12月	<p>① 第3回勉強会を11月13日に東北大学名誉教授の山添先生を講師に「安全性評価における薬物相互作用の考え方」でハイブリッド開催(参加者:23名)</p> <p>② アンケート結果を参考に更なる情報発信の方法の検討継続。</p>	<p>① 2024年も勉強会を開催すべく、候補トピックスと演者の検討を実施する。</p> <p>② アンケート結果を参考に更なる情報発信の方法の検討継続。</p>	

## ILSI Japan 活動報告<2023>

### 食品安全研究会

#### 【香料研究部会】

活動ビジョン・ゴール	年度目標
食品香料の性質と安全性等に関し偏向の無い科学的な調査研究を行う。食品香料に関する正しい科学的共通理解を産・官・学に普及させる。	—

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2月	特になし。	—	—
3, 4月	特になし。	—	—
5, 6月	特になし。	—	—
7, 8月	特になし。	—	—
9, 10月	特になし。	—	—
11, 12月	特になし。	—	—



## ILSI Japan 活動報告<2023>

### 食品領域の動物実験代替推進プロジェクト (AAT プロジェクト)

#### ◆全体進捗

活動ビジョン・ゴール	年度目標
<p>&lt;活動目的&gt;</p> <p>1) 動物に依存しない、毒性発現機序に基づいた、ヒトへの予測性のより高い評価アプローチを確立し、食品の安全性および機能性評価の精緻化・効率化を進展させること。</p> <p>2) 動物愛護の世界的潮流の中で食品領域の取り組みを加速させること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究 WG テーマ推進による評価技術基盤並びに評価戦略構築とケースレポートの作成。</li> <li>情報収集・発信（国際ワークショップ内容のレポートによる発信、シンポジウムの開催）。</li> </ul>

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月17日 シンポジウムプログラムの内容確定に向け、シンポジウムプログラム会議を開催。「まとめ」セッションの内容について検討。</li> <li>2月6日 動物実験代替推進に向けて ILSI Japan シンポジウムを Web にて開催（詳細は WG 活動報告に記載）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3月13日 プロジェクト全体会議を開催予定</li> <li>日本毒性学会（6月）、日本動物実験代替法学会（11月）において活動内容の発表を計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国立医薬品食品衛生研究所、独立行政法人 製品評価技術基盤機構（NITE）、アカデミア等の専門家</li> <li>関連学会（日本動物実験代替法学会等）</li> <li>ヨーロッパ、アジア等の ILSI 支部</li> </ul>
3, 4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>3月13日 プロジェクト全体会議を開催（Web 開催）</li> <li>プロジェクト全体及び各 WG の進捗と今後の活動方針・計画を共有し、全体にて承認。外部発表予定並びに演者選定について情報共有。2022 年度の活動収支（確定）並びに 2023 年度の活動予算について報告。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次回全体会議を 6月5日に予定。</li> <li>日本毒性学会（6月）、日本動物実験代替法学会（11月）において活動内容の発表を計画。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国立医薬品食品衛生研究所、独立行政法人 製品評価技術基盤機構（NITE）、アカデミア等の専門家</li> <li>関連学会（日本動物実験代替法学会等）</li> <li>ヨーロッパ、アジア等の ILSI 支部</li> </ul>
5, 6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月5日 プロジェクト全体会議を開催（秋葉原外部会議室 &amp; Web 開催）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ILSI 台湾主催のシンポジウム（7月末）にて発表予定（ビデオ発表）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国立医薬品食品衛生研究所、独立行政法人 製品評価</li> </ul>

	<p>プロジェクト全体及び各 WG の進捗と今後の活動方針・計画を共有し、全体にて承認。プロジェクトを代表しての外部発表予定について情報共有。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本毒性学会学術年会のシンポジウム（6月19日）においてプロジェクトの活動内容を発表。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本動物実験代替法学会（11月）のシンポジウムにて発表予定。</li> </ul>	<p>技術基盤機構（NITE）、アカデミア等の専門家</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連学会（日本動物実験代替法学会等）</li> <li>・ヨーロッパ、アジア等の ILSI 支部</li> </ul>
7, 8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月28日に開催された ILSI 台湾主催シンポジウムにおいてプロジェクトの活動内容に関して発表（ビデオ発表）。</li> <li>・8月23日 プロジェクトの今後の活動方向性等に関する議論を目的に、コアメンバー会議を開催（Web）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9/11に全体会議を開催予定</li> <li>・日本動物実験代替法学会（11月）のシンポジウムにて発表予定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国立医薬品食品衛生研究所、独立行政法人 製品評価技術基盤機構（NITE）、アカデミア等の専門家</li> <li>・関連学会（日本動物実験代替法学会等）</li> <li>・ヨーロッパ、アジア等の ILSI 支部</li> </ul>
9, 10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月11日 プロジェクト全体会議を開催（八重洲外部会議室&amp;Web開催）。</li> <li>・プロジェクト全体及び各 WG の進捗と今後の活動方針・計画を共有し、全体にて承認。プロジェクトを代表しての外部発表について、今年度の実績並びに予定に関して情報共有。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本動物実験代替法学会（11月）のシンポジウムにて発表予定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国立医薬品食品衛生研究所、独立行政法人 製品評価技術基盤機構（NITE）、アカデミア等の専門家</li> <li>・関連学会（日本動物実験代替法学会等）</li> <li>・ヨーロッパ、アジア等の ILSI 支部</li> </ul>
11, 12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月18日 プロジェクト全体会議を開催（外部会議室（新橋）&amp;Web）。</li> <li>・プロジェクト全体及び各 WG の進捗と今後の活動方針・計画を共有し、全体にて承認。プロジェクトの外部連携活動の状況について共有。2023年度の活動収支（見込み）の報告並びに2024年度の活動費用と会費について説明。</li> </ul>	<p>プロジェクトの今後の活動方向性等に関する議論を目的に、コアメンバー会議を開催予定（2024年1月）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国立医薬品食品衛生研究所、独立行政法人 製品評価技術基盤機構（NITE）、アカデミア等の専門家</li> <li>・関連学会（日本動物実験代替法学会等）</li> <li>・ヨーロッパ、アジア</li> </ul>

	・日本動物実験代替法学会学術年会のシンポジウム（11月29日）においてプロジェクトの活動内容を発表。		ア等のILSI支部
--	--	--	-----------

### 体内暴露予測ワーキンググループ（WG）

活動ビジョン・ゴール	年度目標
食品成分の体内暴露を、動物を用いずに予測する手法の開発推進と現場実装	① 昭和薬科大学山崎研に構築した <i>in silico</i> 動態予測モデルの実装 ② 新規腸管吸収予測ツールの適用性把握 ③ ケースレポート対象化合物の体内暴露予測

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2月	① 山崎研の最新予測モデルに基づき、食品成分の動態予測精度を再検証。過去モデルに比して予測精度が同等以上であることを確認。 ② 新規ツール市販メーカーと打合せ。食品成分への適用に向けた現状と課題、今後の取り組みを確認。 ③ 進捗無し。	① 動態予測モデルの実装に向けた適用範囲明確化とシステム整備 ② 新規ツールの適用性把握に向けた取り組み継続	・山崎浩史教授（昭和薬科大学）
3, 4月	① 山崎研の最新動態予測モデルの精度を更に検証すべく、予測モデル構築過程で活用されなかった新規ヒト動態文献データ（食品成分）を収集。 ② 今後の進め方をWG内で議論。検討①の <i>in silico</i> モデルで課題となる特徴を明確化した上で、課題解決可能な新規ツールの適用性を見極める、という手順を改めて確認。 ③ 進捗無し。	① 予測精度の更なる検証を6月中を目途に進めつつ、動態予測モデルの実装に向けた適用範囲明確化とシステム整備を実施。 ② ①の課題見極めと連動して、課題解決につながる新規ツールの選定および適用性把握の進め方を決定。	・山崎浩史教授（昭和薬科大学）
5, 6月	① 山崎研の最新動態予測モデルの精度を更に検証すべく、予測モデル構築過程で活用されなかった新規ヒト動態文献データ（食品成分）を収集。解析可能な20文献に関して予測を開始。	① 予測精度の更なる検証を7月中を目途に進めつつ、動態予測モデルの実装に向けた適用範囲明確化とシステム整備を実施。 ② ①で適用可能/困難な物質	

	<p>② 進捗無し。</p> <p>③ 対象化合物のラット血中濃度を <i>in silico</i> 動態予測モデルで算出。文献報告値と大きく変わらないことを確認。</p>	<p>の特徴を明確化すべく、食品以外の成分も含めた解析と考察を、8月中終了目途に実施。</p> <p>③ 必要に応じて追加の解析を実施。</p>	
7, 8月	<p>① モデル構築に使用されていない新規食品成分の動態データ（ヒト）を用いて、モデルの予測精度検証を実施。「予測精度が低いと想定される化合物群（適用限界）」の特徴を物性値などの <i>in silico</i> パラメータで予想できないか解析中。</p> <p>②、③ 進捗無し</p>	<p><i>In silico</i> 予測モデルの現場実装を目指し、適用限界の明確化を優先して行う。そのうえで、予測モデルの活用ガイダンス等の整備を年内に行う予定</p>	
9, 10月	<p>① モデル構築に使用されていない新規食品成分の動態データ（ヒト）を用いて、モデルの予測精度検証を実施。予測精度が高い、あるいは、低いと想定される化合物群（適用限界）の特徴を物性値などの <i>in silico</i> パラメータおよび化学構造から予測できないか解析中。</p> <p>②、③ 進捗無し。</p>	<p><i>In silico</i> 予測モデルの現場実装を目指し、適用限界の明確化を優先して行う。そのうえで、予測モデルの活用ガイダンス等の整備を年内に行う予定。</p>	
11, 12月	<p>② モデル構築に使用されていない新規食品成分の動態データ（ヒト）を含め、モデルの予測精度検証を実施。文献値に対して6割程度の予測精度であったこと、ならびに適用範囲を絞ることで予測精度が高まる可能性が見いだされた。</p> <p>②、③ 進捗無し。</p>	<p>モデル実装に向けた予測精度の整理とガイダンス作成、さらには対外的受け入れ性向上に向けた取り組みを行う。また、モデルで課題となる領域について、新技術での解決を図る。</p>	

## データベース WG

活動ビジョン・ゴール	年度目標
食品成分の既存毒性情報（文献等）を収集、活用し、反復投与毒性を予測する手法、システムを開発中。独自に毒性情報を収集することも検	有害性評価支援システム統合プラットフォーム（HESS）を用いた食品成分毒性試験データベース及び使用ガイダンスを含む毒性予測手法の

討する。	AAT 参画メンバーへの公開
------	----------------

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2月	昨年までに 176 種の食品成分に関する毒性試験のデータベース化を完了し、当該データベースによる HESS を用いた Read across の予測精度向上に関する検証を計画。検証のため、NITE 様にて食品成分の Read across を実施。引き続き原著論文との比較実施のため、2 成分を対象にトライアル検証を実施した。	実施したトライアルに基づき、Read across を実施した 15 成分を対象に原著論文との比較を実施予定。	
3, 4月	昨年までに 176 種の食品成分に関する毒性試験のデータベース化を完了し、当該データベースによる HESS を用いた Read across の予測精度向上に関する検証を開始。NITE 様の協働にて実施された食品成分 15 種の Read across 結果を元に 10 種の成分について原著論文との比較検証を行うこととした。現在ステアリングメンバーにて検証作業を実施中。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月12日を期日として検証作業を完了予定。</li> <li>・6月1日にステアリングメンバー会議を行い、検証内容に関するディスカッションを実施予定。</li> </ul>	
5, 6月	昨年までに構築した食品成分の毒性試験データベース (176 種) の有用性検証を目的に Read across の予測結果と原著論文を用いて POD やターゲット臓器の予測の妥当性検証を実施。本検証結果を踏まえて予測における注意点等をまとめる予定。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検証結果からみえた注意点、サポートガイド案のまとめ 1 次案作成を、8 月中を目途に作成。年内を目途にレポートとして取りまとめる。</li> </ul>	
7, 8月	昨年までに構築した食品成分の毒性試験データベース (176 種) の有用性検証を目的に Read-across の予測結果と原著論文を用いて POD やターゲット臓器の予測の妥当性検証を 6 月までに実施。本検証から得られた知見を HESS の利用ガイドとして活用できるよう、事例集を作成し、8 月にステアリングコミッティのメンバーにて内容確認	事例集は年内を目途にまとめる予定。また、並行して構築したデータベースの公開に向け、残課題となっている引用文献の登録及び ILSI 外への一般公開における課題整理及び対応を実施予定。	

	を実施。		
9, 10 月	昨年までに構築した食品成分の毒性試験データベース (176 種) の有用性検証を目的に Read-across の予測結果と原著論文を用いて POD やターゲット臓器の予測の妥当性検証を 6 月までに実施。本検証から得られた知見を HESS の利用ガイドとして活用できるよう、事例集を作成中。合わせてプロジェクト内、及び一般への展開に向けた各種課題対応 (有料論文の著作権課題、HESS へのアップロード/更新の方法等の確認) を実施。	各種課題について関係各所との確認を進め、年内完了予定。	
11, 12 月	昨年までに構築した食品成分の毒性試験データベース (176 種) の有用性検証を目的に Read-across の予測結果と原著論文を用いて POD やターゲット臓器の予測の妥当性検証を 6 月までに実施。本検証から得られた知見を HESS の利用ガイドとして活用できるよう、事例集を作成。12 月の全体会議にて今後の公開範囲について議論。合わせて 176 種のデータベースの公開をもって本 WG の活動を一旦完了とすることで合意した。	データベースの公開に向け、改めて知財の課題について確認を行う。 HESS への登録に向け、NITE 様を訪問し、登録に際しての調整を進める。	

### ケースレポート WG

活動ビジョン・ゴール	年度目標
NAMs (New Approach Methodologies) を用いた食品成分の安全性評価戦略を具体化させ、体内曝露予測 WG とデータベース WG の活動と協力し、in vitro assay 系を加えたリスク評価戦略を作成し、ケースレポートとして発信する。	第 1 弾のケーススタディは「肝障害」をテーマとし、ラット肝細胞を用いた試験から in vitro PoD を求め、評価スキームの妥当性を検証する。

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2 月	ヒトでの有害事象報告があり、ラット経口投与試験にて肝細胞壊死が報告され、また、毒性発現機序	BRL-3A では、凍結肝細胞を用いた文献報告値と比べて毒性発現濃度に関きがみられたた	

	<p>が明らかであるピロリジジナルカロイドのリデリンを評価対象として選択した。細胞系には、動物実験代替および評価戦略構築の観点からラット肝株化細胞 (BRL-3A) を選択し、試験系の妥当性を検証中。</p>	<p>め、再現性を確認すると共に、リデリンの毒性発現に関与する薬物代謝酵素 (CYPs およびグルタチオン) の活性を確認中。さらに、選択した BRL-3A の毒性評価における限界を確認すべく、検討内容を WG で議論中。</p>	
3, 4 月	<p>ヒトでの有害事象およびラットでの肝細胞壊死の報告があり、毒性発現機序が明らかなピロリジジナルカロイドのリデリンを評価対象とした。細胞系には動物実験代替および評価戦略構築の観点からラット肝株化細胞 (BRL-3A) 選択し、in vitro assay 系における毒性発現を、凍結肝細胞を用いた文献報告と比較した。その結果、細胞間で毒性発現濃度に違いが確認され、薬物代謝酵素活性の違いが示唆。</p>	<p>今後の方針を WG で議論し、BRL-3A の毒性評価における限界の確認と併せて、設定した評価戦略の妥当性を検証することとした。In vitro assay 系では試験のどの値を PoD とするか、in vivo assay 系ではどの試験 (投与期間) の値を PoD とするのかについて、文献報告を確認しながら WG で議論中。</p>	
5, 6 月	<p>ヒトでの有害事象およびラットでの肝細胞壊死の報告があり、毒性発現機序が明らかなピロリジジナルカロイドのリデリンを評価対象とした。</p> <p>不足データを補うことを目的とし、動物実験代替の観点から選択したラット肝株化細胞では、文献報告のラット肝初代培養と比べて代謝酵素活性に違いがあり、評価に十分なポテンシャルを有しないことが確認された。そこで、株化細胞の毒性評価における限界の確認と併せて、上記文献報告の情報を活用し、設定した評価戦略の妥当性を検証することとした。</p>	<p>In vitro assay 系における有害反応レベル (BMR) を、文献情報を基に設定し、PoD を統計学および数理モデルを利用して算出する検討を開始した。in vivo assay 系においては、単回あるいは短期反復投与試験の LO(A)EL 値を BMR とし、動態予測モデル (体内曝露予測 WG) にて算出した血中濃度を PoD とした。これら in vitro および in vivo PoD を比較することで、評価戦略の妥当性の検証を計画している。</p>	
7, 8 月	<p>設定した評価戦略の妥当性の検証を実施中。In vitro assay 系では、ラット肝細胞を用いた文献報告を活用し、ベンチマークドーズ (BMD) 法にて in vitro PoD を算出する検討を開始。US EPA の BMDS を使い、ソフトウェアの使</p>	<p>ラット評価系では、in vitro PoD と in vivo PoD とを比較することで、in vitro から in vivo の予測性の検証を進める。今後、ヒト評価系についても同様な手順で検証を進め、課題を確認・抽出しながら評価戦略の妥</p>	

	<p>用方法、各種設定について確認すると共に、適切なモデル選択に対する議論を実施中。</p> <p>In vivo assay 系では、ラットの単回および短期反復投与試験の文献報告を活用し、肝障害に対する LO(A)EL 値を BMR とし、動態予測モデル（体内曝露予測 WG）にて算出した血中濃度を PoD とすることとした。</p>	<p>当性についての検証を計画している。</p>	
9, 10 月	<p>In vitro assay 系では、ラット肝細胞を用いた文献報告を活用し、ベンチマークドーズ（BMD）法にて in vitro PoD を算出。In vivo assay 系では、文献報告のあるラット単回および短期反復投与試験の肝障害 LO(A)EL から曝露濃度予測値（in vivo PoD）を算出。</p> <p>BMD 解析における課題を抽出すると共に、in vitro および in vivo PoD を比較することで、設定した評価戦略の妥当性の検証を実施中。</p>	<p>ラット評価系に続き、同様な手順にてヒト評価系での検証を実施し、課題を確認・抽出しながら評価戦略の妥当性について検証を進める。</p> <p>BMD 解析における課題については、有識者への相談を計画している。</p>	
11, 12 月	<p>In vitro assay 系では、ラット肝細胞を用いた文献報告を活用し、ベンチマークドーズ（BMD）法にて影響を検出できる反応レベル（BMR）を設定してベンチマークドーズ信頼限界下限値（BMDL）を推定（in vitro PoD）。In vivo assay 系では、文献報告のあるラット短期反復投与試験の肝障害 LO(A)EL から曝露濃度予測値（in vivo PoD）を算出。両者を比較することで、設定した評価戦略の妥当性を検証中。</p> <p>In vitro assay 系でのデータセットの取扱いや、PoD 算出に適切な BMR の設定など、BMD 解析における課題を抽出した。</p>	<p>観察データを使って固定値を推定する BMD 法は、サンプルの平均値に左右され、サンプルの数や性質によって推定値も変化する。BMDL の推定には、近年その解析方法が確立された分布を利用して確率変数を求める「ベイズモデル平均化法（Baysian BMD）」が有利であり、今後は主流になるとの情報を得た。</p> <p>2024 年度は、ベイズモデル平均化法の検討を行った後、BMD 法との違いを確認することとする。また、解析における課題については、あらためて有識者への相談を計画する。</p>	

国際ワークショップ&シンポジウム WG ⇒ 企画運営 WG (5-6 月度より名称変更)



活動ビジョン・ゴール	年度目標
動物実験代替法における各国の技術・規制動向に関する情報を発信することにより、食品業界における代替法の開発や取り組みの推進を促す。	(1-2 月度) 2021 年の国際ワークショップに続き、公開シンポジウムを開催する。
	(3-4 月度より変更) 評価技術に関する情報を収集しプロジェクト内へ共有すると共に、プロジェクトの活動内容を学会やワークショップ等を通じて発信する。

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2 月	<p>「ILSI Japan シンポジウム 食品領域の動物実験代替-現状と動向、未来に向けた取り組み」を 2023 年 2 月 3 日に Zoom webinar 形式で開催した。産官学および個人から 305 名が参加した。セッション 1 では、ILSI Japan より 2021 年 10 月に開催された ILSI 国際ワークショップの話題を中心に食品領域における動物実験代替に関する現状と国際動向について報告した。セッション 2 では、動物実験代替に関する最新技術および研究動向についてアカデミアの第一線で活躍されている先生方（東北大学 神崎先生、名古屋市大 松永先生、静岡県大 吉成先生）からご講演いただくと共に、ILSI Japan から食品の安全性評価に関連する当機構の研究の進捗や今後に向けた取り組みを報告した。最後に、関連する学会にご所属の 3 名の有識者（日本抗加齢協会 細山先生、日本動物細胞工学会 大政先生、日本動物実験代替法学会 諫田先生）より、食品領域の動物実験代替推進についてコメントをいただき、今後の取り組みについて展望した。</p>	<p>シンポジウムの概要については「イルシー」誌 No.155 (2023 年 8 月) にフラッシュ・リポートとして掲載する予定である。また、今後のワークショップ・シンポジウムの開催に向けた議論を開始した。</p>	
3, 4 月	<p>2021 年 10 月に開催された ILSI 国際ワークショップの内容をまとめたワークショップレポートが動物実験代替法の国際誌である ALTEX に Meeting Report として掲載された (doi:10.14573/altex.2209262/vol.40 No.2, 2023)。</p>		

	<p>また、2023年2月3日に開催された「ILSI Japan シンポジウム 食品領域の動物実験代替・現状と動向、未来に向けた取り組み」の内容をフラッシュレポートとしてまとめた。本稿は2023年8月発刊の「イルシー」誌 No. 155 に掲載される予定である。</p>		
5, 6月	<p>2023年2月3日に開催された「ILSI Japan シンポジウム 食品領域の動物実験代替・現状と動向、未来に向けた取り組み」の内容をフラッシュレポートとしてまとめた。編集部および著者による最終確認が完了し、校了となった。本稿は2023年8月発刊の「イルシー」誌 No. 155 に掲載される予定である。</p> <p>WGの活動内容をワークショップやシンポジウムの開催運営のみならず、専門家の先生による講演会や内閣府食品安全委員会との勉強会等の企画運営も担うこととした。これに伴ってWG名をAATプロジェクトメンバーの承認を経て「企画運営WG」に変更した。</p>		
7, 8月	<p>2023年2月3日に開催した「ILSI Japan シンポジウム 食品領域の動物実験代替・現状と動向、未来に向けた取り組み」の内容をまとめたフラッシュレポートが、2023年8月発刊の「イルシー」誌 No. 155 に掲載。専門家の先生による講演会や内閣府食品安全委員会との勉強会等を企画するために、プロジェクトメンバーにアンケートを実施。希望分野や講演いただきたい先生等をリストアップした。また、プロジェクトメンバーの専門性等もヒアリングしてリスト化した。</p>	<p>講演会演者候補の選定とスケジュールの決定。アンケート結果の共有によるコミュニケーションの強化。</p>	
9, 10月	<p>食品の機能性評価における動物実験代替法の活用について、専門家の先生による講演会を企画している。プロジェクトメンバーの意見の取りまとめとWGメンバーによる調査により、7名の先生が演者候補として挙げられた。最初に講演いただく先生の</p>		

	<p>決定に向けて、研究内容や研究領域を調査中。参画企業の興味や社会実装の可能性等を考慮して決定する。</p>		
<p>11, 12 月</p>	<p>食品の機能性評価における動物実験代替法の活用について、専門家の先生による講演会を企画している。参画企業の関心度や評価法の社会実装段階の観点から、第1回目の講演会の講師は熊本大学の首藤先生に決定した。講演会の日程や会場、開催方式についてWG内で検討を進めている。また、ILSI-AATプロジェクトとしての外部発表履歴の整理及び新規参加メンバーへの専門性に関するアンケートを実施した。これらの情報は、より多くのプロジェクトメンバーに外部発表の機会を創出するために活用する。</p>		

## ILSI Japan 活動報告<2023>

### バイオテクノロジー研究会

活動ビジョン・ゴール	年度目標
<p>バイオテクノロジーを用いた持続可能な食料の安定供給への貢献を念頭に、バイオテクノロジーの重要性の理解を深め、バイオテクノロジー応用食品・作物・添加物等の安全性・活用に関する調査研究と情報提供を産・学・官連携及び国際的ネットワークを通して推進し、科学的根拠に基づく国際的に調和した安全性評価法や活用法の発展に貢献する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ERA プロジェクト調査報告 (年4回)</li> <li>2. バイオテクノロジー応用微生物を利用して発酵生産された食品・食品添加物等の安全性に関するワークショップ</li> <li>3. 第16回 ISBR (International Society for Biosafety Research) 2023 への安全性評価の専門家の派遣</li> <li>4. 遺伝子組換えナタネの ERA に関する研究成果の論文発表</li> </ol>

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2月	<p>ERA プロジェクト調査報告 No.62号 (2023年3月) の発行、官庁を訪問し、内容説明し提供。</p> <p>ERA プロジェクト調査報告 No.63号のレビューのための10報の論文抄録の事前監修及び会員による事前確認。</p> <p>ERA プロジェクト調査報告 No.64号の論文抄録の収集中。</p> <p>ISBR2023 への派遣者ためのロジスティクス、Parallel Workshop においてゲノム編集の規制や国際的試験要求のセッションの参加依頼、別途 Bayer Crop Science の研究施設見学の調整等</p>	<p>ERA プロジェクト調査報告 No.63号のレビュー (3/2)、監修、印刷</p> <p>ERA プロジェクト調査報告 No.64号の論文抄録の収集及び事前監修依頼</p> <p>ISBR2023 への派遣者全体会議のアレンジ・旅程の確認、発表や情報収集の分担等</p>	<p>農林水産省 厚生労働省 内閣府食品安全委員会 環境省 文部科学省 経済産業省 筑波大学環境系 &amp; つくば機能植物イノベーション研究センター (T-PIRC) 明治大学農学部 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 (農研機構) 作物研究部門 横浜国立大学大学院環境情報研究院 千葉大学大学院園芸学部</p>
3, 4月	<p>3月2日第1回バイオテクノロジー研究会開催 (オンライン・会議室 ハイブリッド形式)。</p> <p>ERA プロジェクト調査報告 No. 64号の論文抄録の収集中。</p>	<p>ERA プロジェクト調査報告 No. 63号のレビュー (3/2)、監修、印刷。</p> <p>ERA プロジェクト調査報告 No. 64号の論文抄録の収集及</p>	<p>農林水産省 厚生労働省 内閣府食品安全委員会 環境省</p>

	<p>ISBR2023 (4/30-5/4) の派遣者ためのロジスティクス、Parallel Workshop においてゲノム編集の規制や国際的試験要求のセッションの参加依頼、別途 Bayer Crop Science の研究施設見学の調整等。4月28日、29日、派遣者および一部同行者出発。</p> <p>バイオテクノロジー応用微生物を利用して生産された食品・食品添加物の安全性に関する WS (2022年12月開催) の「イルシー」誌最終原稿確認。5月発刊。</p> <p>同 WS の日程調整開始。明治大学中島教授、千葉大学児玉教授参加ご了承。</p>	<p>び事前監修依頼。</p> <p>ISBR2023 への派遣者全体会議のアレンジ・旅程の確認、発表や情報収集の分担等。</p> <p>バイオテクノロジー応用微生物を利用して生産された食品・食品添加物の安全性に関する WS 準備開始。</p>	<p>文部科学省 経済産業省 筑波大学環境系 &amp; つくば機能植物イノベーション研究センター (T-PIRC) 明治大学農学部 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 (農研機構) 作物研究部門 横浜国立大学大学院環境情報研究院 千葉大学大学院園芸学部</p>
5, 6月	<p>① ISBR2023 (4/30-5/4) に5名の先生方を、バイテク技術を応用</p>	<p>ERA プロジェクト調査報告 No. 64 号のレビュー、監修、</p>	<p>農林水産省 厚生労働省</p>

	<p>して開発された植物、動物、微生物の最新レギュラトリーサイエンスに関する知見を取得していただくとともに、日本のレギュラトリーサイエンスに関する知見を海外で紹介いただくことを目的に招聘。3演題のご発表もいただいた。また、ILSI Japan としても GM 植物の ERA に関するパラレルセッションを企画、運営した。</p> <p>② 6月19日第2回バイオテクノロジー研究会開催（オンライン・会議室 ハイブリッド形式）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ERA プロジェクト調査報告 No.63 号の発行、No. 64 号の review。</li> <li>• ISBR2023 の報告。ERA 報告書特別号として 2023 年後半に発行予定。</li> <li>• ERA 報告事業レビューアール先生のご退任および後継に関して議論。来年度からの変更を見込む。</li> <li>• 「バイオテクノロジー応用微生物を利用して生産された食品・食品添加物の安全性に関する WS」（2022 年 12 月開催）の「イルシー」誌最終原稿確認。5 月発刊。</li> </ul> <p>2023 年度の同 WS の日程が 2023 年 11 月 27 日もしくは 12 月 4 日に絞られたことが報告され、のち、12 月 4 日開催に決定。明治大学中島教授、千葉大学児玉教授参加ご了承。</p>	<p>印刷。</p> <p>ERA プロジェクト調査報告 No. 65 号の論文抄録の収集及び事前監修依頼。</p> <p>ISBR2023 報告書発行へ向けた編纂。</p> <p>「バイオテクノロジー応用微生物を利用して生産された食品・食品添加物の安全性に関する WS」準備。</p>	<p>内閣府食品安全委員会 環境省 文部科学省 経済産業省 筑波大学環境系 &amp; つくば機能植物イノベーション研究センター (T-PIRC) 明治大学農学部 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)作物研究部門 横浜国立大学大学院環境情報研究院 千葉大学大学院園芸学部</p>
7, 8 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ERA プロジェクト調査報告 No. 64 号のレビュー、監修</li> <li>• ERA プロジェクト調査報告 No. 65 号の論文抄録の収集及び事前監修依頼。</li> <li>• ISBR2023 の報告書 ERA 報告書特別号及び「イルシー」誌フラ</li> </ul>	<p>ERA プロジェクト調査報告 No. 64 号の発行、配布。</p> <p>ERA プロジェクト調査報告 No. 65 号の論文抄録の収集及び事前監修依頼。</p> <p>ISBR2023 報告書発行へ向けた編纂及び「イルシー」誌への</p>	<p>農林水産省 厚生労働省 内閣府食品安全委員会 環境省 文部科学省 経済産業省</p>

	<p>ッシュ・レポートの原稿作成。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ERA 報告事業来年度からの新レビューアー先生の契約準備。</li> <li>• 「バイオテクノロジー応用微生物を利用して生産された食品・食品添加物の安全性に関する WS」(2023年12月4日開催予定) 準備。</li> </ul>	<p>フラッシュ・レポートの寄稿。</p> <p>「バイオテクノロジー応用微生物を利用して生産された食品・食品添加物の安全性に関する WS」 準備。</p>	<p>筑波大学環境系&amp;つくば機能植物イノベーション研究センター (T-PIRC)</p> <p>明治大学農学部 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)作物研究部門 横浜国立大学大学院環境情報研究院 千葉大学大学院園芸学部</p>
9, 10 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 9月20日第3回バイオテクノロジー研究会開催(オンライン・会議室 ハイブリッド形式)。</li> <li>• ERA プロジェクト調査報告 No. 65 号のレビュー、監修。</li> <li>• ERA プロジェクト調査報告 No. 66 号の論文抄録の収集及び事前監修依頼。</li> <li>• ISBR2023 の報告書 ERA 報告書特別号及び「イルシー」誌フラッシュ・レポートの印刷手配。</li> <li>• ERA 報告事業来年度からの新レビューアー先生の契約。</li> <li>• 「バイオテクノロジー応用微生物を利用して生産された食品・食品添加物の安全性に関する WS」(2023年12月4日開催予定) 準備。</li> </ul>	<p>ERA プロジェクト調査報告 No. 65 号の発行、配布。</p> <p>ERA プロジェクト調査報告 No. 66 号の論文抄録の収集及び事前監修依頼。</p> <p>「バイオテクノロジー応用微生物を利用して生産された食品・食品添加物の安全性に関する WS」 準備。</p>	<p>農林水産省 厚生労働省 内閣府食品安全委員会 環境省 文部科学省 経済産業省 筑波大学環境系&amp;つくば機能植物イノベーション研究センター (T-PIRC)</p> <p>明治大学農学部 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)作物研究部門 横浜国立大学大学院環境情報研究院 千葉大学大学院園芸学部</p>
11, 12 月	<p>バイオテクノロジー応用微生物を利用して発酵生産された食品・食品添加物等の安全性に関するワークショップ開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 日時：12月4日 月曜日 14:00-17:30</li> <li>• Zoom と会場(東京都中央区京橋)ハイブリッド形式</li> </ul>	<p>ERA プロジェクト調査報告 No. 66 号のレビュー、発行、配布、送付先の見直し。</p> <p>「バイオテクノロジー応用微生物を利用して生産された食品・食品添加物の安全性に関する WS」 実施。</p>	<p>農林水産省 厚生労働省 内閣府食品安全委員会 環境省 文部科学省 経済産業省 筑波大学環境系&amp;</p>

	<p>・参加人数：126名 (産：官：学=15：2：1)</p> <p>・遺伝子組換え食品・添加物に係る制度について 厚生労働省 健康・生活衛生局 食品基準審査課 新開発食品保健 対策室 室長 佐野 喜彦 氏</p> <p>・遺伝子組換え食品等の食品健康 影響評価について 内閣府食品安全委員会事務局 評 価第二課 新食品等係長 山口 拓朗 氏</p> <p>・科学の進歩とレギュラトリーサ イエンスから予想する未来のGM 食品・添加物の規制 (仮題) 千葉大学 大学院園芸学研究院 先端園芸工学講座 児玉 浩明 教授</p> <p>・高度精製食品・食品添加物 最 近の審査の現状について (仮題) 明治大学 農学部 農芸化学科 微生物生態学研究室 中島 春紫 教授</p> <p>11月にERAプロジェクト調査報 告書特別号 第16回 International Society for Biosafety Research (ISBR) Symposium 参加 報告書が発行された。</p> <p>12月19日に第4回バイオテクノ ロジー研究会開催 (オンライン・ 会議室 ハイブリッド形式)。</p> <p>・林先生ご逝去につきERAプロジ ェクト調査報告の今後について議 論。</p> <p>2024年度より、報告書名を「植物 バイオテクノロジー報告書」に変</p>		<p>つくば機能植物 イノベーション 研究センター (T-PIRC)</p> <p>明治大学農学部 国立研究開発法人 農業・食品産業技 術総合研究機構 (農研機構)作物 研究部門</p> <p>横浜国立大学大学 院環境情報研究 院</p> <p>千葉大学大学院園 芸学部</p>
--	--	--	---



	更。 ・ ISO TC34/SC16 に関する情報が共有された。		
--	-------------------------------------	--	--

**栄養健康研究会**

**【栄養研究部会】**

活動ビジョン・ゴール	年度目標
<p>「健康寿命延伸」はグローバルな持続可能な開発目標 SDGs の目標 3「すべての人に健康と福祉を」に合致することから、「健康寿命延伸」をキーワードとした活動を継続する。</p>	<p>「健康長寿延伸」のための最新のエビデンスを継続して発信していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 公開セミナー（有料）を Zoom ミーティングで 1 年に数回開催する。</li> <li>● セミナー参加登録者に対しては、オンデマンド配信を実施する。</li> </ul>

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2 月	<p>2023 年からは、活動テーマを「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは」とし、「世代別の健康と栄養」に関する公開セミナーをシリーズ化して開催する。</p> <p>進捗は、以下の通り。</p> <p>第 1 回公開セミナー開催（6 月）に向け、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 1 月 12 日：講師の先生と Zoom 面談にて講演を依頼した（快諾を得た）。</li> <li>● 2 月 16 日：講師の先生と Zoom 面談にて講演を依頼した（快諾を得た）。</li> <li>● 2 月 27 日：お二人の講師の先生と Zoom 面談にて詳細について打ち合わせた。</li> </ul>	<p>計画は、以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 6 月：第 1 回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：妊婦・乳幼児編」</li> <li>● 9 月：第 2 回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：成長期編」</li> <li>● 12 月：第 3 回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：中高年期編」</li> <li>● 2024 年 3 月：第 4 回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：老年期編」</li> </ul>	
3, 4 月	<p>2023 年からは、活動テーマを「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは」とし、「世代別の健康と栄養」に関する公開セミナーをシリーズ化して開催する。</p> <p>進捗は、以下の通り。</p> <p>① 3 月 6 日：2023 年第 2 回部会（Zoom）を開催し、以下の点につ</p>	<p>計画は、以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 6 月 23 日：第 1 回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：妊婦・乳幼児編」を開催。</li> <li>2. 9 月：第 2 回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策と</li> </ol>	

	<p>いて意見交換。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 第1回セミナー(6月)に向け、準備作業の担当者を決めた。</li> <li>● 第2回(9月)と第3回(12月)の公開セミナーのテーマと講師について、意見交換した。</li> </ul> <p>② 4月11日：2023年第3回部会(Zoom)を開催し、以下の点について意見交換。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 関連学会・協会等の団体のホームページ・メルマガ掲載依頼メールの送付要領・送付先の確認。</li> </ul> <p>③ 4月17日：ILSI Japanのホームページに第1回セミナーの案内を掲載。</p> <p>④ 4月25日：2023年第4回部会(Zoom)を開催し、以下の点について意見交換。</p> <p>第2回(9月)と第3回(12月)のテーマと講演を依頼する先生方について、再度、意見交換した。</p>	<p>は：成長期編(案)」</p> <p>3. 12月：第3回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：中高年期編(案)」</p> <p>4. 2024年3月：第4回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：老年期編(案)」</p>	
5,6月	<p>2023年からは、活動テーマを「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは」とし、「世代別の健康と栄養」に関する公開セミナーをシリーズ化して開催する。</p> <p>進捗は、以下の通り。</p> <p>① 6月5日：2023年第5回部会(Zoom)を開催し、以下の点について意見交換。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 第1回公開セミナー(6月23日 Zoom開催)のZoomホスト・司会等の担当者(最終決定)について。</li> <li>● 第2回公開セミナー(10月23日 Zoom開催)の進捗状況について。</li> <li>● 第3回(来年2月)公開セミナーのテーマと講師について。</li> </ul>	<p>実績は、以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 第1回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：妊婦・乳幼児編」を6月23日に開催(Zoom)。</li> <li>● 参加登録数：158名(一般企業、大学、学校、医療機関等の非会員の参加登録：約60%)</li> <li>● 参加登録者へのオンデマンド配信開始：6月30日(金)～1か月間</li> </ul> <p>計画は、以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 第2回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：小児期編」を10月23日に開催(Zoom)決定。</li> <li>● 第3回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決</li> </ul>	

		すべき課題と対策とは：中高年期編（案）」を 2024 年 2 月に開催予定。	
7, 8 月	<p>2023 年からは、活動テーマを「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは」とし、「世代別の健康と栄養」に関する公開セミナーをシリーズ化して開催する。</p> <p>進捗は、以下の通り。</p> <p>① 第 2 回公開セミナー（10 月 23 日 Zoom 開催）に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●お二人の講師の先生に対する講演依頼状等の書類を作成・発信。</li> <li>●ILSI Japan ホームページに参加登録サイトを公開（8 月 23 日）。</li> <li>●各種学会・団体・協会等に対して、公開セミナーのプロモーションを開始。</li> </ul> <p>② 第 3 回公開セミナーに向けて</p> <p>お二人の講師の先生と Zoom にて面談（7 月 21 日）し、公開セミナーの開催日とテーマを決定した。</p>	<p>実績は、以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●6 月 23 日に Zoom にて開催した、第 1 回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：妊婦・乳幼児編」の録画動画を参加登録者にオンデマンド配信した（6 月 30 日（金）～1 か月間）。</li> <li>●10 月 23 日に Zoom にて開催予定の第 2 回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：小児期編」の参加登録サイトを ILSI Japan ホームページに公開（8 月 23 日）。</li> </ul> <p>計画は、以下の通り。</p> <p>第 3 回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：中高年期編」を 2024 年 2 月 16 日（金）の午後に開催予定。</p>	
9, 10 月	<p>2023 年からは、活動テーマを「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは」とし、「世代別の健康と栄養」に関する公開セミナーをシリーズ化して開催する。</p> <p>進捗は、以下の通り。</p> <p>③ 第 2 回公開セミナー（10 月 23 日 Zoom 開催）に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ILSI Japan ホームページに参加登録サイトを公開したので（8/23）、各種学会・団体・協会等に対して、第 2 回公開セミナーのプロモーションを実施した。</li> </ul> <p>④ 第 3 回公開セミナーに向けて</p> <p>お二人の講師の先生に「要旨執筆およびご略歴記載依頼書」を再送信した（リマインド）。</p>	<p>実績は、以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●第 2 回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：小児期編」を 10 月 23 日に開催（Zoom）。</li> <li>●参加登録数：90 名（一般企業、大学、学校、医療機関等の非会員および ILSI Japan 会員企業）</li> <li>●参加登録者へのオンデマンド配信開始：10 月 30 日（月）～1 か月間</li> </ul> <p>計画は、以下の通り。</p> <p>第 3 回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：中高年期</p>	

		編」を 2024 年 2 月 16 日 (金) の午後に開催予定。	
11, 12 月	<p>2023 年からは、活動テーマを「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは」とし、「世代別の健康と栄養」に関する公開セミナーをシリーズ化して開催する。</p> <p>進捗は、以下の通り。</p> <p>① 第 3 回公開セミナー (2024 年 2 月 16 日 Zoom 開催) に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 部会を開催し、当日の担当を振り分けた (12/11)。</li> </ul> <p>② 第 4 回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：老年期編」に向けて</p> <p>候補の先生と Zoom にて面談し、講演を依頼した (12/27)。</p>	<p>実績は、以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 第 2 回公開セミナーの参加登録者へのオンデマンド配信を実施：10 月 30 日 (月) ～ 11 月 29 日 (水) までの 1 月間。</li> <li>● ILSI Japan ホームページに第 3 回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：中高年期編」の参加登録サイトを公開したので (12/15)、会員、各種学会・団体・協会等に対して、第 3 回公開セミナーのプロモーションを開始した。</li> </ul> <p>計画は、以下の通り。</p> <p>第 3 回公開セミナー「中高年期編」を 2024 年 2 月 16 日 (金) の午後に開催予定。</p>	

## ILSI Japan 活動報告<2023>

### 栄養健康研究会

#### 【GR プロジェクト】

活動ビジョン・ゴール	年度目標
食品・食事の血糖応答性の簡易評価法（GR 法）の確立と普及	GR 法の確立・発表 論文発表

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2 月	論文投稿準備 GR 法詳細条件の検討	論文投稿 GR 法に関する討論会の開催	
3, 4 月	論文投稿準備（英文校正、共著者レビュー） GR 法詳細条件の検討	論文投稿 GR 法に関する討論会の開催	
5, 6 月	論文投稿準備（英文校正、共著者レビュー） GR 法詳細条件の検討	論文投稿 GR 法に関する討論会の開催	
7, 8 月	論文投稿準備（共著者レビュー） GR 法詳細条件の検討	論文投稿 GR 法に関する討論会の開催	
9, 10 月	論文投稿準備（共著者レビュー） GR 法詳細条件の検討	論文投稿 GR 法に関する討論会の開催	
11, 12 月	論文投稿 GR 法詳細条件の検討	論文発表 GR 法に関する討論会の開催	GR プロジェクト

## ILSI Japan 活動報告<2023>

### 栄養健康研究会

#### 【茶類研究部会・茶情報分科会】

活動ビジョン・ゴール	年度目標
茶樹に係わりその成分の世界的な多様さ、飲料 その他商品に係わり各種茶成分の機能性、研 究・開発・商品化等につき会員相互間の情報交 換を深めると共に、外部からも情報を得る。	—

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2月	特になし	—	—
3, 4月	特になし	—	—
5, 6月	特になし	—	—
7, 8月	特になし	—	—
9, 10月	特になし	—	—
11, 12月	特になし	—	—

## ILSI Japan 活動報告<2023>

### CHP (Center for Health Promotion)

#### ◆CHP 全体

活動ビジョン・ゴール	年度目標
日本の産・官・学界に蓄積された栄養学、医学、公衆衛生、衛生環境等の分野における科学的知識および技術を、国内および世界的に共通な課題の解決に活用し、SDGs に基づいた社会貢献を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ SUN Business Network Japan（仮称：SBNJ）事務局機能誘致に向けた活動継続。</li> <li>➤ SDGs 貢献プラットフォームの形成。</li> </ul>

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2 月	SBN と戦略パートナーシップ締結に向けて進めてきたが、WFP 日本を通じて、「戦略的パートナーシップについても WHO コードを順守しない BMS 企業の参加団体と協力できない」との連絡を受領。農林水産省、WFP と今後の対応を検討する。	SBN との関係構築により、効率的な情報収集に繋げる。必要に応じて、他の国際団体との関係構築も進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ Global Alliance for Improved Nutrition (GAIN)</li> <li>✓ Bill &amp; Melinda Gates Foundation</li> <li>✓ SUN Business Network (SBN)</li> <li>✓ World Food Programme (WFP)</li> <li>✓ アジア開発銀行</li> </ul>
3, 4 月	SBN と戦略パートナーシップ締結に向けて進めてきたが、WFP 日本を通じて、「戦略的パートナーシップについても WHO コードを順守しない BMS 企業の参加団体と協力できない」との連絡を受領。農林水産省、WFP と今後の対応を検討する。	SBN との関係構築により、効率的な情報収集に繋げる。必要に応じて、他の国際団体との関係構築も進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ Global Alliance for Improved Nutrition (GAIN)</li> <li>✓ Bill &amp; Melinda Gates Foundation</li> <li>✓ SUN Business Network (SBN)</li> <li>✓ World Food</li> </ul>



			<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ Programme (WFP)</li> <li>✓ アジア開発銀行</li> </ul>
5, 6 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ SBN と戦略パートナーシップ締結において、活動に制限がかかる母乳代替品 (BMS : Breast-Milk Substitutes) 製造企業に対し、説明会を開催し、締結が承認された。</li> <li>➤ 国内セミナーとして、SBN アジア諸国からの活動報告を実施する案を検討。</li> </ul>	SBN との関係構築を進める。最初の計画として、国内セミナーでの登壇を要請。同時に ILSI Japan の役割も具体化させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ Global Alliance for Improved Nutrition (GAIN)</li> <li>✓ Bill &amp; Melinda Gates Foundation</li> <li>✓ SUN Business Network (SBN)</li> <li>✓ World Food Programme (WFP)</li> <li>✓ アジア開発銀行</li> </ul>
7, 8 月	SBN 本部とセミナー開催を目指し、打ち合わせを実施。SBN アジア諸国からの活動紹介を行う予定。	ILSI Japan の役割も具体化させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ Global Alliance for Improved Nutrition (GAIN)</li> <li>✓ Bill &amp; Melinda Gates Foundation</li> <li>✓ SUN Business Network (SBN)</li> <li>✓ World Food Programme (WFP)</li> <li>✓ アジア開発銀行</li> </ul>
9, 10 月	SBN 本部とのセミナー開催に向けた打合せを行い、開催日は、来年 1 月 31 日に決定	セミナー開催後の ILSI Japan の役割具体化を目指す	Global Alliance for Improved Nutrition (GAIN)
11, 12 月	SBN 本部とのセミナー開催に向けた打合せを行い、開催日は、1 月 31 日に決定	セミナー開催後の ILSI Japan の役割具体化を目指す	Global Alliance for Improved Nutrition (GAIN)

**CHP (Center for Health Promotion)**

◆Project PAN (Physical Activity and Nutrition) “身体活動と栄養” プロジェクト

活動ビジョン・ゴール	年度目標
超高齢化が進む国内において、働きざかりの人々や高齢者の健康維持を支援する、運動と栄養の複合プログラムの開発と実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ヘルシーエイジングのためのプログラムの開発・普及</li> <li>➤ 介護予防教室の開催(自治体、社会福祉協議会、企業)</li> <li>➤ 地域リーダーの育成(大学、社会福祉協議会、シルバー人材センター)</li> <li>➤ 論文等、科学的成果の発信</li> </ul>

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2月	2022年度墨田区の委託事業「すみだテイクテン教室」の効果についての解析ならびに報告書の作成。 2023年度開催予定の同教室の準備。 共同研究に関する論文投稿の準備。	介護予防教室、地域リーダー育成養成講座の開催。 論文投稿。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 石巻専修大学</li> <li>✓ 鹿児島大学</li> <li>✓ 島根大学</li> <li>✓ 札幌医科大学</li> <li>✓ 東京都健康長寿医療センター研究所</li> <li>✓ 国立健康長寿医療センター</li> <li>✓ 墨田区</li> <li>✓ 横浜市社会福祉協議会</li> <li>✓ 岩国市社会福祉協議会</li> <li>✓ 吉賀町社会福祉協議会</li> <li>✓ 津和野町シルバー人材センター</li> <li>✓ 益田市シルバー人材センター</li> </ul>
3, 4月	➤ 2022年度墨田区の委託事業「すみだテイクテン教室」の効果についての解析ならびに報告書の提出。	介護予防教室、地域リーダー育成養成講座の開催。 論文投稿。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 石巻専修大学</li> <li>✓ 鹿児島大学</li> <li>✓ 島根大学</li> <li>✓ 札幌医科大学</li> <li>✓ 東京都健康長</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ すみだテイクテン自主グループ交流会の開催 (3/30 すみだ女性センター, 現在墨田区内で教室終了後に自主的に活動をしている7つのサークル参加者を対象)。</li> <li>➤ 2023 年度「すみだテイクテン教室」春教室開催 (4/18, 4/25, 墨田区総合運動場)。</li> <li>➤ 共同研究に関する論文投稿の準備。</li> </ul>		<p>寿医療センター研究所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 国立健康長寿医療センター</li> <li>✓ 墨田区</li> <li>✓ 横浜市社会福祉協議会</li> <li>✓ 岩国市社会福祉協議会</li> <li>✓ 吉賀町社会福祉協議会</li> <li>✓ 津和野町シルバー人材センター</li> <li>✓ 益田市シルバー人材センター</li> </ul>
5, 6 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 2023 年度「すみだテイクテン教室」春教室開催 (5/16, 5/23, 5/30, 6/6, 6/20, 6/27, 墨田区総合運動場)</li> <li>➤ 共同研究に関する論文投稿</li> <li>➤ 学会発表演題登録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 介護予防教室、地域リーダー育成養成講座の開催</li> <li>➤ 論文投稿</li> <li>➤ 学会発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 石巻専修大学</li> <li>✓ 鹿児島大学</li> <li>✓ 島根大学</li> <li>✓ 札幌医科大学</li> <li>✓ 東京都健康長寿医療センター研究所</li> <li>✓ 国立健康長寿医療センター</li> <li>✓ 墨田区</li> <li>✓ 横浜市社会福祉協議会</li> <li>✓ 岩国市社会福祉協議会</li> <li>✓ 吉賀町社会福祉協議会</li> <li>✓ 津和野町シルバー人材センター</li> <li>✓ 益田市シルバー人材センター</li> </ul>
7, 8 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ テイクテン介護予防リーダー養成講座</li> <li>➤ 主催) 津和野町シルバー人材センター (8/30, 31 栄町共栄館 (津和野町))</li> <li>➤ テイクテン介護予防リーダース</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 論文投稿</li> <li>● 学会発表</li> <li>● 介護予防リーダー養成講座</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 石巻専修大学</li> <li>✓ 鹿児島大学</li> <li>✓ 島根大学</li> <li>✓ 札幌医科大学</li> <li>✓ 東京都健康長寿医療センター研究所</li> </ul>

	<p>キルアップ講座</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 主催) 益田市シルバー人材センター、津和野町シルバー人材センター合同開催 (8/28, 29 豊田公民館 (益田市))</li> <li>➤ 自主グループ活動支援 (8/18 墨田区生涯学習センター)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 国立健康長寿医療センター</li> <li>✓ 墨田区</li> <li>✓ 横浜市社会福祉協議会</li> <li>✓ 岩国市社会福祉協議会</li> <li>✓ 吉賀町社会福祉協議会</li> <li>✓ 津和野町シルバー人材センター</li> <li>✓ 益田市シルバー人材センター</li> </ul>
9, 10 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 2023 年度 「すみだテイクテン教室」 秋教室開催 (9/6, 9/20, 10/4, 10/18, ユートリヤすみだ生涯学習センターマスターホール, 10/5, 10/19, 10/26, 緑コミュニティセンター多目的ホール)</li> <li>➤ テイクテン介護要望活動リーダー養成講座 主催) 津和野町シルバー人材センター (9/12, 9/13, 津和野町共栄館)</li> <li>➤ 東京家政学院大学 栄養プロデュース実習 (9/5, 9/6, 9/19, 9/20, 1 班, 10/3, 10/5, 10/17, 10/19, 2 班)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本公衆衛生学会発表</li> <li>● 論文投稿</li> <li>● ホームページリニューアル</li> <li>● 東京家政学院大学栄養プロデュース実習受け入れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 石巻専修大学</li> <li>✓ 鹿児島大学</li> <li>✓ 島根大学</li> <li>✓ 札幌医科大学</li> <li>✓ 東京都健康長寿医療センター研究所</li> <li>✓ 国立健康長寿医療センター</li> <li>✓ 墨田区</li> <li>✓ 横浜市社会福祉協議会</li> <li>✓ 岩国市社会福祉協議会</li> <li>✓ 吉賀町社会福祉協議会</li> <li>✓ 津和野町シルバー人材センター</li> <li>✓ 益田市シルバー人材センター</li> </ul>
11, 12 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 2023 年度 「すみだテイクテン教室」 秋教室開催 (11/1, 11/15, 11/29, 12/13, ユートリヤすみだ生涯学習センターマスターホール; 11/2, 11/9, 11/16, 11/30, 12/14, 緑コミュニティセンター多目的ホール)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 論文投稿準備</li> <li>● ホームページリニューアル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 石巻専修大学</li> <li>✓ 鹿児島大学</li> <li>✓ 島根大学</li> <li>✓ 札幌医科大学</li> <li>✓ 東京都健康長寿医療センター研究所</li> <li>✓ 国立健康長寿</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 東京家政学院大学 栄養プロデュース実習 (11/28, 11/29, 11/30, 12/5, 12/13, 12/14)</li> <li>➤ 第 82 回公衆衛生学会総会ポスター発表, 演題「地域における介護予防リーダーの栄養素摂取量～同地域在住の高齢者との比較」(11/2, つくば国際会議場)</li> </ul>		<p>医療センター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 墨田区</li> <li>✓ 横浜市社会福祉協議会</li> <li>✓ 岩国市社会福祉協議会</li> <li>✓ 吉賀町社会福祉協議会</li> <li>✓ 津和野町シルバー人材センター</li> <li>✓ 益田市シルバー人材センター</li> </ul>
--	--	--	--

**CHP (Center for Health Promotion)**

**◆Project DIET ( Dietary Improvement and Education with TAKE 10!®)  
“途上国栄養改善と栄養教育”プロジェクト**

活動ビジョン・ゴール	年度目標
途上国、新興国における官民連携の栄養改善の取組み「栄養改善事業推進プラットフォーム」(NJPPP) のプロジェクトとして、工場など職場の栄養改善プロジェクトを東南アジア各国で推進	<p>&lt;フィリピン&gt; 「フィリピンの栄養強化米プロジェクト 2022 (調査研究)」 2024 年パリ栄養サミットに向けプロジェクトの総括を実施。</p> <p>&lt;ベトナム&gt; 「ベトナムにおける野菜の摂取行動に影響を与える要因調査」 ビジネスモデル構築、並びに 2024 年パリ栄養サミットに向けプロジェクトの総括を実施。</p> <p>&lt;ミャンマー&gt; 「完全オンラインによるブロックチェーン技術を応用した職場における栄養教育」 栄養教育推進に焦点を当てたビジネスモデル構築に向けた展開を計画。</p> <p>&lt;インドネシア&gt; 「インドネシアにおける健康的な食事の普及に関する調査 2022」 ビジネスモデル構築、並びに 2024 年パリ栄養サミットに向けプロジェクトの総括を実施。</p>

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1,2月	<p>&lt;フィリピン&gt; NJPPP 運営委員会でのプロジェクト承認を受け、FNRI との契約、および国内関係部署との三社契約を完了。3 月の報告書提出に向け、定期的 Web 会議 (2/2、3/6) を実施し、進捗を確認。</p> <p>&lt;ベトナム&gt; NJPPP 運営委員会でのプロジェクト承認を受け、契約書を締結。ベトナム版 TAKE10!による「個性と食事摂取との関連性」を調査。</p> <p>&lt;ミャンマー&gt;</p>	<p>&lt;フィリピン&gt; 年度末に報告書提出。来年度の展開を考慮し、成果を導く。</p> <p>&lt;ベトナム&gt; 年度末に報告書提出。来年度の展開を考慮し、成果を導く。</p> <p>&lt;ミャンマー&gt; 来年以降、現地企業の CSR 事業として、従業員の健康推進を目的としたプロジェクトとしての展開をめざす。</p> <p>&lt;インドネシア&gt; 年度末に報告書提出。来年度</p>	<p>&lt;フィリピン&gt; Food and Nutrition Research Institute (FNRI: フィリピン食品健康研究所)</p> <p>&lt;ベトナム&gt; National Institute of Nutrition (ベトナム栄養研究所)</p>

	<p>NJPPP 運営委員会でのプロジェクト承認を受け、契約書を締結。定期的な Web 会議を通じ、導入アプリケーション、インセンティブについて確認。栄養教育ビデオを通じ、参加者に栄養情報を提供。</p> <p>&lt;インドネシア&gt;</p> <p>健康意識の高い若い女性を対象とし、野菜を身近な存在にすることを旨とする。定期的な Web 会議で進捗確認。ミールキットとレシピの提供により、対象者の野菜摂取の向上が見られると同時に食材（例：ブロッコリー）による対応の違いも散見されている。3月の報告書期限に向けた対応実施。</p>	<p>の展開（ビジネスモデル構築）を念頭に本年度成果を導く。</p>	<p>&lt;ミャンマー&gt;</p> <p>National Institute of Nutrition</p> <p>&lt;インドネシア&gt;</p> <p>ボゴール農科大学（現 IPB Univ.）</p> <p>SUN Business Network Indonesia</p>
3,4月	<p>&lt;フィリピン&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 2022 年度プロジェクト報告を NJPPP 運営委員会で実施。同日、報告書提出（3/16）。</li> <li>➤ 関係団体で 2023 年度プロジェクト推進について相談（4/12）。</li> </ul> <p>&lt;ベトナム&gt;</p> <p>2022 年度プロジェクト報告書を NJPPP に提出（3/13）。NJPPP 運営委員会で報告を実施（3/16）。</p> <p>&lt;ミャンマー&gt;</p> <p>2022 年度プロジェクト報告書を NJPPP に提出（3/13）。NJPPP 運営委員会で報告を実施（3/16）。</p> <p>&lt;インドネシア&gt;</p> <p>2022 年度プロジェクト報告を NJPPP 運営委員会で実施（3/16）。報告書提出（3/17）。</p>	<p>&lt;フィリピン&gt;</p> <p>NJPPP 運営委員会（6/1）にむけ、プロジェクト提案を検討。</p> <p>&lt;ベトナム&gt;</p> <p>NJPPP 運営委員会（6/1）にむけ、プロジェクト提案を検討。</p> <p>&lt;ミャンマー&gt;</p> <p>現地企業の CSR 事業として、従業員の健康推進を目的としたプロジェクトの展開をめざす。</p> <p>&lt;インドネシア&gt;</p> <p>NJPPP 運営委員会（6/1）にむけ、プロジェクト提案を検討。</p>	<p>&lt;フィリピン&gt;</p> <p>Food and Nutrition Research Institute（FNRI：フィリピン食品栄養研究所）</p> <p>&lt;ベトナム&gt;</p> <p>National Institute of Nutrition（ベトナム栄養研究所）</p> <p>&lt;ミャンマー&gt;</p> <p>National Institute of Nutrition</p> <p>&lt;インドネシア&gt;</p> <p>ボゴール農科大学（現 IPB Univ.）</p> <p>SUN Business Network Indonesia</p>
5,6月	<p>&lt;フィリピン&gt;</p> <p>2022 年度プロジェクト最終報告書を受領（6/19）。内容確認後、NJPPP に提出。</p> <p>&lt;ベトナム&gt;</p> <p>2023 年度提案について、打合せ</p>	<p>&lt;フィリピン&gt;</p> <p>2023 年度提案について 7 月 4 日に打合せを実施。</p> <p>&lt;ベトナム&gt;</p> <p>早期の打ち合わせを計画。</p> <p>&lt;ミャンマー&gt;</p>	<p>&lt;フィリピン&gt;</p> <p>Food and Nutrition Research Institute（FNRI：フィリ</p>

	<p>を実施していない。</p> <p>&lt;ミャンマー&gt; クーデターによる政情不安が続いており、現地でのプロジェクト展開は厳しい状況。農林水産省とも情報共有している。</p> <p>&lt;インドネシア&gt; 2023年度実施プロジェクト（ビジネスコンセプトに関する調査「顧客反応、市場分析等」）について、農林水産省を交え、打ち合わせを実施。ILSI Japan の関わり方を検討。</p>	<p>現地の状況を注視する。</p> <p>&lt;インドネシア&gt; ILSI Japan の関わり方を明確にした後、NJPPP へのプロジェクト提案予定。</p>	<p>ピン食品栄養研究所)</p> <p>&lt;ベトナム&gt; National Institute of Nutrition (ベトナム栄養研究所)</p> <p>&lt;ミャンマー&gt; National Institute of Nutrition</p> <p>&lt;インドネシア&gt; ボゴール農科大学 (現 IPB Univ.) SUN Business Network Indonesia</p>
7,8月	<p>&lt;フィリピン&gt; 実施会社の組織替えがあり、担当者の変更があった。</p> <p>&lt;ベトナム&gt; 担当者から、「今後、ベトナムでの取組みを深掘りするか、他国へ展開して新たな取組みを開始するかについて、現在社内で検討中」との連絡あり (8/19)。</p> <p>&lt;ミャンマー&gt; クーデターによる政情不安は一層深刻な状況。</p> <p>&lt;インドネシア&gt; 2023年度実施プロジェクトが承認された (8/18)。契約書作成中。</p>	<p>&lt;フィリピン&gt; 2023年度提案について、再度打ち合わせを提案中。</p> <p>&lt;ベトナム&gt; 10月を目途にアジアでの戦略を練るとのこと。</p> <p>&lt;ミャンマー&gt; 現地の状況を注視継続。</p> <p>&lt;インドネシア&gt; プロジェクト開始に向け、役割分担を明確化していく。</p>	<p>&lt;フィリピン&gt; Food and Nutrition Research Institute (FNRI: フィリピン食品栄養研究所)</p> <p>&lt;ベトナム&gt; National Institute of Nutrition (ベトナム栄養研究所)</p> <p>&lt;ミャンマー&gt; National Institute of Nutrition</p> <p>&lt;インドネシア&gt; ボゴール農科大学 (現 IPB Univ.) SUN Business Network Indonesia</p>
9,10月	<p>&lt;フィリピン&gt; フィリピン FNRI への今年度提案内容を「栄養強化米のソーシャルマーケティング調査」に決定し打診したところ、ソーシャルマーケティングより先ず栄養強化米の</p>	<p>&lt;フィリピン&gt; 今年度提案は断念</p> <p>&lt;ベトナム&gt; 今年度提案について、実施会社の意向の再確認を行う予定</p> <p>&lt;ミャンマー&gt;</p>	<p>&lt;フィリピン&gt; Food and Nutrition Research Institute (FNRI: フィリピン食品栄養研</p>



	<p>有用性研究を実施したいと返答があり、構想が合わないため、今年度の提案は見送る方針</p> <p>&lt;ベトナム&gt; 進捗なし</p> <p>&lt;ミャンマー&gt; 進捗なし</p> <p>&lt;インドネシア&gt; Web 会議を実施し、本年度の役割は対象者への質問内容の確認、及び回答の解析であることを確認</p>	<p>状況注視を継続</p> <p>&lt;インドネシア&gt; 質問作業のフォロー並びに回答の解析</p>	<p>研究所</p> <p>&lt;ベトナム&gt; National Institute of Nutrition (ベトナム栄養研究所)</p> <p>&lt;ミャンマー&gt; National Institute of Nutrition</p> <p>&lt;インドネシア&gt; ボゴール農科大学 (現 IPB Univ.) SUN Business Network Indonesia</p>
11, 12 月	<p>&lt;フィリピン&gt; 本年度プロジェクト立案無し</p> <p>&lt;ベトナム&gt; 本年度プロジェクト立案無し</p> <p>&lt;ミャンマー&gt; 本年度プロジェクト立案無し</p> <p>&lt;インドネシア&gt; 1 回/月のペースで Web 会議を実施し、ビジネスモデル構築に向けたポイントについて協議</p> <p>(1) 提供する製品形態</p> <p>(2) 食事摂取推奨量(主要栄養素)</p> <p>(3) 健康的な食事の基準</p> <p>(4) 質問票の内容(消費者の購買意欲を高める手法、建前の正解ではなく本質を聞き出す方法)</p> <p>(5) Take10 Sheet の使用</p>	<p>&lt;フィリピン&gt; -</p> <p>&lt;ベトナム&gt; -</p> <p>&lt;ミャンマー&gt; -</p> <p>&lt;インドネシア&gt; Web 会議を通じてプロジェクトのフォローを継続</p>	<p>&lt;フィリピン&gt; Food and Nutrition Research Institute (FNRI: フィリピン食品栄養研究所)</p> <p>&lt;ベトナム&gt; National Institute of Nutrition (ベトナム栄養研究所)</p> <p>&lt;ミャンマー&gt; National Institute of Nutrition</p> <p>&lt;インドネシア&gt; ボゴール農科大学 (現 IPB Univ.) SUN Business Network Indonesia</p>

## ILSI Japan 活動報告<2023>

### 国際協力委員会

活動ビジョン・ゴール	年度目標
アジアの ILSI 各支部間の交流による食品法規 動向及びリスク評価等の情報収集・共有化と ILSI Japan 関係者への成果報告	(1-2 月度) ~ (5-6 月度) 10 月開催予定の BeSeTo 会議（アジア地域 ILSI 各支部との情報交換会）への参加、情報交換
	(7-8 月度より変更) 10 月 26-27 日開催予定の Asia Science Institute Network (ALSIN) 会議（アジア地域 ILSI 支部 との情報交換会）への参加、情報交換

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2 月	<p>&lt;進捗&gt; 1 月に本年の会議開催と開催場所 が確定されたが、2 月は特に進捗は ない</p> <p>&lt;課題&gt; 1) 議案確定への意見出し 2) 参加者、発表内容の確定 3) 会議の新たな名称案の検討</p>	<p>3 月 委員会にて対応を検討開 始 議案確定への協力</p> <p>4 月 参加者、発表内容の確定 会議参加予定者による 対策会議体の立ち上げ と始動</p> <p>10 月 BeSeTo 会議開催（台 湾）</p>	アジア地域の ILSI 各支部
3, 4 月	<p>&lt;進捗&gt; 3 月に委員会の会合を開催。 ILSI Taiwan 発足 10 周年ではある が、多くの企業で対面参加は困難 な模様。ビデオ発表/Web 参加の 可能性を打診いただくことに。</p> <p>&lt;課題&gt; 1) 議案確定への意見出し 2) 参加者、発表内容の確定 3) 会議の新たな名称案の検討</p>	<p>5 月 委員会にて対応検討を本 格化 議案確定への協力</p> <p>6 月 参加者、発表内容（発表 方法）の確定</p> <p>10 月 BeSeTo 会議開催（台 湾）</p>	アジア地域の ILSI 支部
5, 6 月	<p>&lt;進捗&gt; 5/19 に委員会の会合を開催。会議 のハイブリッド開催が確定し、よ り参加しやすい環境となった。参 加希望者、及び主催者より提案さ れた各テーマ内での日本からの発</p>	<p>7 月 参加者、発表内容の確定</p> <p>8 月 分担決定、原稿作成開始</p> <p>9 月 原稿作成、完成</p> <p>10 月 ALSIN 会議開催(台湾)</p> <p>12 月 振り返り</p>	アジア地域の ILSI 支部

	<p>表テーマ案（参加者は各1題報告予定）についてアンケートを取ることとした。</p> <p>なお、前回提示した課題のうち、BeSeTo 会議の新たな名称については ALSIN（Asian Life Science Institute Network）となった。</p> <p>&lt;課題&gt;</p> <p>1) 議案確定への意見出し 2) 参加者、発表内容の確定</p>		
7, 8 月	<p>&lt;進捗&gt; 2回の委員会開催。</p> <p>7/6 (Web) :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表課題と担当者の案をほぼ決定。</li> </ul> <p>8/24 (ハイブリッド) :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表課題と担当者の案を確定 (事務局を通じ、主催者に連絡)</li> <li>・一部たたき台の確認</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議詳細の確認</li> <li>・上記を踏まえた演題と発表時間の確定</li> <li>・発表内容の確定</li> </ul>	<p>9 月 原稿作成、完成</p> <p>10 月 ALSIN 会議開催(台湾)</p> <p>12 月 振り返り</p>	
9, 10 月	<p>&lt;進捗&gt;</p> <p>① 前回の委員会での確認事項を踏まえ、担当者は個別にスライドを作成。</p> <p>② 委員会開催 (10/5 ハイブリッド) :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主催者側からの正式要請に伴い、発表課題と担当者、時間割を確定 (事務局を通じ、主催者に連絡)</li> <li>・原稿進捗の確認 (音声データ入り ppt の作成方法も併せ確認)</li> </ul> <p>③ 10/25:ILSI 台湾 10 周年記念シンポジウム出席 (台北市:対面のみ)</p>	<p>次回委員会は 12 月開催予定 (調整中)。議題は下記を予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返り</li> <li>・イルシー誌投稿</li> <li>・今後の活動計画</li> </ul>	アジアの ILSI 各支部

	<p>事務局山口様ほか委員会メンバー2名参加</p> <p>④ 10/26-27: ALSIN 会議開催(台北市)</p> <p>対面参加者: 同上</p> <p>Web 参加: 委員会メンバー5名</p> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イルシー誌への投稿(締切: 2/15)</li> </ul>		
11, 12月	<p>&lt;進捗&gt;</p> <p>11月22日: 部会長会議にて来年の計画と予算案を報告</p> <p>12月22日: 委員会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返り: 通信状態の悪化等、Web参加には困難があった。</li> <li>・イルシー誌投稿: 上記事情により、発表者は自身の発表内容を優先して取りまとめることとした。</li> <li>・今後の活動計画: 次回以降の検討。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イルシー誌への投稿(締切: 2/15)。</li> </ul>	<p>次回委員会を2月初めに開催予定(調整中)。議題は下記を予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イルシー誌投稿</li> <li>・今後の活動計画</li> </ul>	

## ILSI Japan 活動報告<2023>

### 食品機能性研究会

#### 【AI 栄養・機能性研究部会】

#### ◆AI 栄養機能プロジェクト

活動ビジョン・ゴール	年度目標
実生活から創出される莫大な量のリアルワールドデータについて、最新のデータサイエンスおよびAI技術を活用し、様々な生活習慣と健康との関係性を解明することで、一人ひとりに適した情報提供を可能とするAIシステムを構築する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フレイル予測モデル論文化</li> <li>・フレイルナレッジグラフ作成</li> <li>・ナレッジグラフスキル（育成）</li> <li>・北大阪健康医療都市（健都）での発信</li> </ul>

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2月	<p>○運営会議（1/27, 2/24; Zoom）を開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・23年度活動方針に関して、フレイル予測モデルの論文化と社会実装（健都発信）の検証、ナレッジグラフのスキル育成と作成の方針で固まった。</li> <li>・(和食WG) 食生活実態と腸内菌叢の多様性に関する解析結果を論文投稿（2月）。</li> <li>・(AI創出WG) NEXISデータからフレイル予測モデルの作成を試みた。変数との相関は示されるも、フレイルに合致する人が少なく、予測精度を高めるための更なるアプローチが必要であることを示した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・23年度活動方針をブレイクダウンして、スケジュール化する。</li> <li>・(AI創出WG) 視点を変え、フレイルに重要な因子を推定し論文化を目指す。</li> <li>・3/8（水）15時よりAIディアトロフィ研究部門との合同報告会が開催され、本分科会より3演題発表予定。</li> <li>・3/24（金）に運営会議を予定。</li> </ul>	国立健康・栄養研究所
3, 4月	<p>○3/8、AI合同報告会を開催し年次報告を実施。「健康・栄養分野の知識拡張」「和食WGの論文化に関して」「活動目標と今後の計画」の3題を発表。</p> <p>&lt;23年度スケジュールと実施内容について&gt;</p> <p>○予測モデル（AI創出）WG、和</p>	<p>○和食WGは投稿済みの論文に次ぐ、第2弾の研究にNEXISデータを活用し解析を開始する。</p> <p>○健都見学会を企画検討中。</p> <p>○健栄研 山田先生からのご提案： NEXISとは異なるビッグデ</p>	国立健康・栄養研究所（健栄研）

	<p>食WGに加え、23年度にナレッジグラフWGを追加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 予測モデルWG、和食WGとも論文化を検討中。</li> <li>○ ナレッジグラフWGについてはNEXISデータへのアクセスが不要で取り組める内容も多くあり、技術を習得したいという方を含め各社からメンバーを募集。4/13にキックオフ会議実施。健栄研の山本・井上両先生より概要説明あり。</li> <li>○ 健栄研の大阪移転に伴い、健都イベントスペースを活用した外部発信を検討。公表内容はアクセプト後の論文内容がメイン。</li> <li>○ NEXISデータのリモート運用について（健栄研 進藤先生）：Soliton Secure Desktopを用いた健栄研のPC画面をリモート操作。各社が準備する専用の端末の要件・使用ルールは、あらためて整理・共有頂く。7月を目途に利用開始できるよう準備中。</li> </ul>	<p>ータを協力研究員が解析できるよとの提案。倫理受講の有効期限を確認後、2～3か月の準備期間で利用開始できる見込み。</p>	
5,6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 月次運営会議（5/26）、（6/23）を実施し、プロジェクト全体の進捗確認、課題、スケジュールを確認、更新。</li> <li>○ 予測モデルWG、和食WGともに論文化に着手。それぞれ投稿、再投稿、第2弾研究の準備を進めている。</li> <li>○ フレイルナレッジグラフスキルWGにてデータセットをベースに構造化（ナレッジグラフ化）するスキルを習得。</li> <li>○ 北大阪健康医療都市（健都）で</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 月次運営会議による全体進捗管理。</li> <li>○ 予測モデルWG、和食WGによる論文化を引き続き実施。リモート解析の実現による、解析環境のフレキシビリティ向上を準備中。</li> <li>○ フレイルナレッジグラフスキルについてはデータセットの構築についての理解と、フレイルを対象としたデータセット作成を課題として実施。</li> <li>○ 北大阪健康医療都市（健都）</li> </ul>	国立健康・栄養研究所（健栄研）

	の成果発信にむけて、現地打ち合わせ (6/6)。	での成果発信は 11 月の健都フェスをターゲットに調整、内容の構想を継続。	
7, 8 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 月次運営会議 (7 月)、(8 月) を実施し、プロジェクト全体の進捗確認、課題、スケジュールを確認、更新。</li> <li>○ 論文アクセプト microorganisms 誌“Ramen Consumption and Gut Microbiota Diversity in Japanese Women: Cross-Sectional Data from the NEXIS Cohort Study”</li> <li>○ 予測モデル WG 論文化に向けて解析実施。</li> <li>○ フレイルナレッジグラフスキル WG にてデータセットをベースに構造化 (ナレッジグラフ化) するスキルを習得。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 月次運営会議による全体進捗管理。</li> <li>○ AI と食品勉強会 (仮題) 10 月</li> <li>○ 健都見学会 10 月</li> <li>○ 北大阪健康医療都市 (健都) での成果発信は 11 月の健都フェスをターゲットに調整、内容の構想を継続。</li> </ul>	国立健康・栄養研究所 (健栄研)
9, 10 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 月次運営会議 (9 月)、(10 月) を実施し、プロジェクト全体の進捗確認、課題・スケジュールを確認、更新。</li> <li>○ 和食 WG: 解析対象について検討中。</li> <li>○ 予測モデル WG: 論文化に向けて解析継続。</li> <li>○ フレイルナレッジグラフスキル WG にて自然言語処理習得中。</li> <li>○ AI と食品勉強会 10 月 オンラインで約 70 名参加</li> <li>○ 健都見学会 10 月</li> </ul>	○ 北大阪健康医療都市 (健都)、11 月 26 日の健都フェスにてポスター発表。	国立健康・栄養研究所 (健栄研)
11, 12 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 月次運営会議 (11 月)、(12 月) を実施し、プロジェクト全体の進捗確認、課題・スケジュールを確認、更新。</li> <li>○ 和食 WG: 解析対象について検討中。</li> </ul>	○ 第一期の活動総括	国立健康・栄養研究所 (健栄研)

	<p>○予測モデル WG：論文執筆中。</p> <p>○フレイルナレッジグラフスキル WG:PubMed を対象とした自然言語処理と図示。</p> <p>○建都フェスにてポスター発表（11月26日）。</p>		
--	--	--	--

### ◆AI ディアトロフィ研究部門

活動ビジョン・ゴール	年度目標
数千分子種よりなる食品摂取によるヒトの代謝状態を最新のコンピュータ技術と計算科学を活用し、高速で安価に食の機能性・安全性を予測する AI システムを構築する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代謝モデルの領域拡大</li> <li>・機能伝達経路のイジングモデル</li> <li>・AI 教育</li> </ul>

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2 月	<p>○東北大と参画企業による報告会（1/23, 2/20 : Zoom）が開催され、下記について説明、講義、情報共有などが行われた。</p> <p>●代謝イジングモデル：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最近の量子コンピュータに関する動向から、計算実行方法と新たなイジングモデルの検討方向性が示された。</li> <li>・免疫代謝におけるイジングモデルの活用に関し、細胞実験系の提案がなされた。</li> </ul> <p>●AI リテラシー勉強会：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Deep Learning について、富谷昭夫「これならわかる機械学習入門」を用いてご教授頂いた。</li> </ul> <p>●総説論文の作成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総説論文第 2 弾（食品の品質・栄養・代謝における AI の活用に関する）を取りまとめ中。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3/8（水）15 時より AI 栄養機能プロジェクトとの合同報告会が開催され、東北大より 2 演題発表予定。</li> <li>・3/27（月）15:00～17:00 に定例報告会を予定。</li> </ul>	東北大未来科学技術共同研究センター
3, 4 月	<p>○3/8、AI 合同報告会を開催し年次報告を実施。「免疫代謝に関するイジングモデルに向けてー細胞実験の考え方ー」「量子コンピュータの現状&amp;ビタミンCのイジングモデル化の報告」「活動目</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の報告会に際し、</li> <li>●AI リテラシー勉強会：</li> <li>・これまで実施してきた Python プログラミング基礎の延長として AlphaFold2 (LocalColabFold)の操作に</li> </ul>	東北大未来科学技術共同研究センター 東北大大学院農学研究科



	<p>標と今後の計画」の3題を発表。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 東北大と参画企業による報告会 (3/27, 4/25 : Zoom) が開催され、AI 教育の講義、情報共有などが行われた。</li> <li>○ また、4/25 の会では、参加企業からなるAI ディアτροφイ分科会と東北大先生方との間で、今後のAI 教育でとりあげるテーマに関するディスカッションが実施された。</li> </ul>	<p>関する勉強会を今後上期に予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●総説論文の作成： <ul style="list-style-type: none"> <li>・総説論文第2弾 (食品の品質・栄養・代謝におけるAI の活用に関する) を取りまとめており、今期投稿予定。</li> </ul> </li> </ul>	
5, 6 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東北大と参画企業による月例の報告会 (5/22, 6/19 : Zoom) が開催された。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・5/22 の報告会では、AI リテラシーの講義として、AlphaFold2 (LocalColabFold) 利用環境について説明がなされた。また、作成中のレビュー論文進捗について報告された。</li> <li>・6/19 の報告会では、イジングモデルに関する研究進捗の共有が行われた。</li> </ul> </li> <li>○AI ディアτροφイ研究部門分科会 (参加企業で構成) の今期執行部体制として、分科会長：越智 (森永乳業)、副分科会長 (4社)：舟橋 (雪印メグミルク)、吉岡 (アサヒクオリティーアンドイノベーションズ)、室橋 (ブルボン)、児玉 (味の素) となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●AI リテラシー勉強会： <ul style="list-style-type: none"> <li>・AlphaFold2 (LocalColabFold) の操作に関する希望企業への指導が個別に実施される予定。</li> </ul> </li> <li>●総説論文の作成： <ul style="list-style-type: none"> <li>・総説論文第2弾 (食品の品質・栄養・代謝におけるAI の活用に関する) を取りまとめており、今期投稿予定。</li> </ul> </li> <li>●7月の報告会は、東北大 NICHe 現地およびリモートのハイブリッド開催を予定。</li> </ul>	<p>東北大学未来科学技術共同研究センター (New Industry Creation Hatchery Center, NICHe) 東北大学大学院農学研究科</p>
7, 8 月	<p>月例の報告会が、7月24日 (月) に、Zoom 及び対面 (東北大 NICHe) のハイブリッドで開催された。本プロジェクト開始後初めての現地開催であり、企業3社が</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●AI リテラシー勉強会： <ul style="list-style-type: none"> <li>・AlphaFold2 (LocalColabFold) の操作結果に関する企業からの発表 (第2回)。</li> </ul> </li> <li>●総説論文の作成：</li> </ul>	<p>東北大学未来科学技術共同研究センター (NICHe : New Industry Creation Hatchery Center,</p>

	<p>現地参加した。各種の進捗状況の共有のほか、量子コンピュータ技術に関して現時点での総括、AIリテラシー勉強会では AlphaFold2 (LocalColabFold) の操作結果に関する企業からの発表2件が行われた。</p>	<p>・総説論文第2報 (食品の品質・栄養・代謝におけるAIの活用に関する) を取りまとめており、今期投稿予定。 ●次回9月の報告会は、リモート開催を予定。</p>	<p>NICHe) 東北大学大学院農学研究科</p>
9, 10月	<p>月例の報告会が、9月19日(月)および10月30日(月)に、Zoomによりリモート開催された。 代謝/免疫の量子コンピュータによるネットワークのモデル化 (イジングモデル) の進捗報告とその原理の概説、および「AIリテラシー講座」として実験医学 (月刊誌) の特集である「AlphaFoldの可能性と挑戦」について解説が行われた。</p>	<p>ILSI Japan 会員向けにオープンセミナーを11月下旬もしくは12月上旬に開催予定。発表内容としては2年半実施してきた現時点での進捗として、代謝/免疫系のイジングモデルなどについて発表する予定である。</p>	<p>東北大学未来科学技術共同研究センター (NICHe: New Industry Creation Hatchery Center, NICHe) 東北大学大学院農学研究科</p>
11, 12月	<p>研究部門としての進捗報告会が11月28日(火)に、また月例の報告会が12月18日(月)に、それぞれ Zoom によりリモート開催された。 進捗報告会では、14社が参加し、東北大 NICHe・宮澤教授より冒頭挨拶、同・畠山教授より「食の多成分摂取時の生体内反応を説明できるAIシミュレーションシステムの構築」の演題で講演が行われた。 月例報告会では、代謝イジングモデル構築のための QUBO ソルバー「TYTAN」利用に関する途中経過の説明がなされた。</p>	<p>月例の報告会を1月22日、2月20日、3月18日に開催予定。また、今期の成果報告会を2月~3月頃に実施する予定で調整中である。</p>	<p>東北大学未来科学技術共同研究センター (NICHe: New Industry Creation Hatchery Center, NICHe) 東北大学大学院農学研究科</p>

## ILSI Japan 活動報告<2023>

### 情報委員会

#### ◆情報委員会・編集部会

活動ビジョン・ゴール	年度目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調査・研究活動とその成果の発表</li> <li>・ 科学情報の普及</li> <li>・ 国内外の関連機関との交流・連携</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 活動報告配信（年6回）</li> <li>2. 機関誌「イルシー」の発行（年4回）</li> <li>3. 「栄養学レビュー」誌の発刊（年4回）（女子栄養大学出版部との共同事業）</li> <li>4. 種々出版物発刊のコーディネート</li> </ol>

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2月	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2022年11, 12月分配信（1月）</li> <li>2. 「イルシー」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 153号：発行、ホームページ掲載、お知らせメール配信（2/13）</li> <li>・ 154号：編集中（2023年5月発行予定）</li> <li>・ 129号～132号（発行より5年経過）をパスワードフリーにしてホームページに再掲</li> </ul> </li> <li>3. 「栄養学レビュー」誌 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 119号：発行（2/20）</li> <li>・ 120号：編集中（2023年5月発行予定）</li> <li>・ 121号：編集中（2023年8月発行予定）</li> </ul> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 部会活動報告の配信（1月、3月、5月、7月、9月、11月）</li> <li>2. 機関誌「イルシー」の発行（2月、5月、8月、11月）</li> <li>3. 「栄養学レビュー」誌の発刊（2月、5月、8月、11月）</li> </ol>	
3, 4月	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2023年1, 2月分配信（3月）</li> <li>2. 「イルシー」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 154号：編集中（2023年5月発行予定）</li> <li>・ 155号：編集中（2023年8月発行予定）</li> </ul> </li> <li>2. 「栄養学レビュー」誌 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 120号：校了 発行予定（5/20）</li> <li>・ 121号：編集中（2023年8月発行予定）</li> <li>・ 122号：編集中（2023年11月発行予定）</li> </ul> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 部会活動報告の配信（1月、3月、5月、7月、9月、11月）</li> <li>2. 機関誌「イルシー」の発行（2月、5月、8月、11月）</li> <li>3. 「栄養学レビュー」誌の発刊（2月、5月、8月、11月）</li> </ol>	

5, 6月	1. 活動報告 ・ 2023年3,4月分配信(5月) 2. 「イルシー」 ・ 154号:発行、ホームページ掲載、お知らせメール配信(5/22) ・ 155号:編集中(2023年8月発行予定) 3. 「栄養学レビュー」誌 ・ 121号:編集中(2023年8月発行予定) ・ 122号:編集中(2023年11月発行予定)	1. 部会活動報告の配信 (1月、3月、5月、7月、9月、11月) 2. 機関誌「イルシー」の発行 (2月、5月、8月、11月) 3. 「栄養学レビュー」誌の発刊 (2月、5月、8月、11月)	
7, 8月	1. 活動報告 ・ 2023年5,6月分配信(8月) 2. 「イルシー」 ・ 155号:発行、ホームページ掲載、お知らせメール配信(8/17) ・ 156号:編集中(2023年11月発行予定) 3. 「栄養学レビュー」誌 ・ 121号:2023年8月発行 ・ 122号:編集中(2023年11月発行予定)	1. 部会活動報告の配信 (1月、3月、5月、7月、9月、11月) 2. 機関誌「イルシー」の発行 (2月、5月、8月、11月) 3. 「栄養学レビュー」誌の発刊 (2月、5月、8月、11月)	
9, 10月	1. 活動報告 ・ 2023年7,8月分配信(9月) 2. 「イルシー」 ・ 156号:編集中(2023年11月発行予定) 3. 「栄養学レビュー」誌 ・ 122号:編集中(2023年11月発行予定) ・ 123号:編集中(2024年2月発行予定)	1. 部会活動報告の配信 (1月、3月、5月、7月、9月、11月) 2. 機関誌「イルシー」の発行 (2月、5月、8月、11月) 3. 「栄養学レビュー」誌の発刊 (2月、5月、8月、11月)	
11, 12月	1. 活動報告 ・ 2023年9,10月分配信(11月) 2. 「イルシー」 ・ 156号:発行、ホームページ掲載、お知らせメール配信(11/17)	1. 部会活動報告の配信 (1月、3月、5月、7月、9月、11月) 2. 機関誌「イルシー」の発行 (2月、5月、8月、11月)	

	<ul style="list-style-type: none"><li>・157号：編集中（2024年2月発行予定）</li><li>・158号：編集中（2024年5月発行予定）</li></ul> <p>3. 「栄養学レビュー」誌</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・122号：編集中（2023年11月発行）</li><li>・123号：編集中（2024年2月発行予定）</li><li>・124号：編集中（2024年5月発行予定）</li></ul>	<p>3. 「栄養学レビュー」誌の発刊 （2月、5月、8月、11月）</p>	
--	--	--	--

## ILSI Japan 活動報告<2023>

### 事務局

#### 【理事会】

1, 2 月	<p>第 1 回理事会が令和 5 年 2 月 2 日（木）に開催された。</p> <p>1. 令和 5 年通常総会審議事項・報告事項</p> <p>審議事項</p> <p>1) 2022 年事業活動報告及び決算報告書案承認の件 事務局長が各研究会、研究部会ごとに事業活動の報告をし、決算の概要を資料に基づき説明した。</p> <p>2) 2023 年事業活動報告及び収支予算書案承認の件 事務局長が各研究会、研究部会ごとに事業活動の計画及び収支予算の概要を資料に基づき説明した。</p> <p>1)、2)とも異議なく承認された。</p> <p>報告事項</p> <p>1) 本部動向 事務局長から 2023 年本部収支予算等について説明した。</p> <p>2) 広報活動資料 事務局長から広報活動資料について説明した。</p> <p>2. 報告・討議事項</p> <p>1) 第 50 回日本毒性学会学術年会での発表 事務局長が資料に基づき説明した。 積極的な対外活動を勧めるよう意見があった。</p> <p>2) その他 事務局長より年次総会、理事会の 2023 年開催日程の説明をした。</p>
3, 4 月	<p>第 2 回理事会が令和 5 年 4 月 19 日（水）に開催された。</p> <p>&lt;決議事項&gt;</p> <p>1. 新理事の選任 味の素（株）のスムリガ・ミロ氏が選任され、承認された。</p> <p>2. 理事長代行と事務局長の選任 児島理事長の辞任に伴う、次期理事長の選出は次回理事会にて実施。それまで谷口茂副理事長を理事長代行として運営することを決議した。</p> <p>&lt;討議事項&gt;</p> <p>1. 理事長選出に関して 次回理事会を対面あるいはハイブリッドにて開催しより深く論議できるよう環境を整え、結果をふまえて適任な方を理事長に選任することとした。</p>

	<p>2. 第 13 回 DOHaD 学会 2025 協賛依頼 討議の結果、協賛する方向で確認した。</p> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <p>1. 本部動向アップデート 3月22日のアッセンブリー・ボードにおいて、前回の本部総会の赤字収支を受けて総会の再定義や次回総会開催について各支部からの分担金の提案が本部よりあった。</p> <p>2. ILSI Global Research Program の結果について 昨年、ILSI本部が各支部から募集した ILSI Global Research Program 案の内容を説明。各案は現在、専門家会議にて精査中。</p> <p>3. その他 今年10月開催の「食品開発展 2023」の協賛依頼があり昨年と同様に協賛実施。</p>
5, 6 月	開催なし。
7, 8 月	<p>第 3 回理事会が令和 5 年 7 月 12 日（水）に開催された。</p> <p>&lt;決議事項&gt;</p> <p>1. 理事選任 津金昌一郎理事の辞任により、後任に同じく国立健康・栄養研究所の瀧本秀美所長が選任され、満場一致で承認された。本人も Web 会議上で承諾した。</p> <p>➤ 理事長互選 前回の理事会に引続き再度の互選の結果、宮澤陽夫会長が理事長を兼任することで全員異議なく承認された。本人もその場で承諾した。</p> <p>&lt;討議事項&gt;</p> <p>1. ILSI Japan 論文投稿 担当次長より①雑誌投稿中の「TAKE 10!®の有効性を裏付ける島根大学との共同研究」、②10月末の日本公衆衛生学会総会での発表「地域における介護予防リーダーの栄養素摂取量ー同地域在住高齢者との比較」、③鹿児島大学との共同研究の「中高年期における食品（多様性）と体組成、および非侵襲バイオマーカーとの関連性についての調査」の説明があり、若干の質疑があった。</p> <p>2. 次期理事長選出、弊機構の在り方、会員勧誘活動、部会活動等についてのフリー・ディスカッション 前回到引続き、各部会活動、広報活動、グローバル組織のメリット、Codex 参加等、出席理事より種々意見をいただいた。</p> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <p>1. 本部動向 来年開催の本部総会での議題の内容について報告した。続けて議題選出メンバーの説明があり、その中に日本人が参加してなかったのでその理由を調査することになった。</p> <p>2. 東邦大学医学部朝倉先生より「日本人の食事摂取基準」の使用実態調査への協力依頼の説明があり、理事会メンバー及び研究部会長、事務局の参加を要請した。</p>
9, 10 月	<p>第 4 回理事会が令和 5 年 10 月 11 日（水）に Web とリアル参加にて開催された。</p> <p>&lt;決議事項&gt;</p> <p>○本部理事会メンバーの選出</p>

	<p>台湾、韓国、インド、日本の4支部から候補者を選出すると本部の指示により討議の結果、日本支部から候補者が出なかったため、台湾支部の候補者を選出することを決議した。</p> <p>&lt;討議事項&gt;</p> <p>○理事長の選出、ILSI Japan の在り方</p> <p>次期理事長の選出について、討議した結果、インダストリー側から、まず ILSI Japan の在り方について議論することが先である、との意見が出た。そのため活動内容について会員各社に簡単なアンケート調査を実施し、次回理事会にて結果を報告することになった。</p> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <p>1. ILSI Japan 収支報告</p> <p>2023 年の基本収支見込と 2024 年基本収支予算について説明した。24 年収支については、今年より厳しいため、会費の値上げ案が出された。ILSI Japan の在り方を議論し、それに基づいて収支を見直すべきとの意見が出た。</p> <p>2. CHP 活動</p> <p>12 月の理事会の事前情報提供として ILSI Japan と CHP の経理の統合について、メリットを説明し、意見をもらった。</p> <p>3. AI 栄養・機能性研究部会共同研究講座</p> <p>来年3月に第2期を始める前に、全参加企業に今後の参加についてのインタビューをし、その結果が芳しくないことを報告した。今後の対応について意見をもらった。</p>
11, 12 月	<p>第5回理事会が令和5年12月13日(水)に Hybrid 形式で開催された。</p> <p>&lt;確認事項&gt;</p> <p>1. ILSI グローバル理事選出において、ILSI Japan は、他の3つのアジア支部とのグループになった経緯について</p> <p>2. ILSI 組織としての弱体化が指摘。コカ・コーラ社やネスレ社脱退後、ILSI 本部はどのように進めていくのか。</p> <p>3. ネスレ日本の動き</p> <p>1. ~ 3. すべて事務局長が回答した。</p> <p>4. 「ILSI Japan の今後」についてのアンケート結果 杉本次長が説明した。</p> <p>5. 理事長選出について 議論の結果、アカデミアから次期理事長として宮澤理事長が続投となった。</p> <p>&lt;決議事項&gt;</p> <p>1. 2023 年収支見込案 俵積田次長が説明し、承認された。</p> <p>2. 2024 年収支予算案 俵積田次長が説明し、赤字予算に反対が出て次回理事会にて再度提案することになった。</p> <p>3. CHP 経理の ILSI Japan への統合 事務局長から業務重複、繁雑さ等から統合案が説明され、承認された。</p> <p>4. AI 栄養・機能性共同研究講座第2期募集 第1期が来年3月で終了、次期講座について募集することが承認された。</p> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <p>1. 研究部会長会議概要 2023 年活動と 2024 年活動計画が記された資料を参照いただくことで了解を得た。</p>



	2024年総会、理事会日程 事務局長が資料に基づいて説明し、総会日程につき数人の理事の出席不可が判明、再度検討することとなった。
--	--

### 【ILSI Japan 総会】

1, 2月	<p>令和5年通常総会が2月21日（火）午前10時よりWeb（Zoom）会議にて開催された。 正会員総数52名のうち総会出席数34名、書面表決16名であった。</p> <p>1. 審議事項</p> <p>第1号議案 2022年度事業活動報告及び決算報告案が承認された。 第2号議案 2023年度事業活動計画及び収支予算案が承認された。 質疑は以下の通り。</p> <p>DVD出版物の廃棄処分の承認経路について質問があり、保管場所及び販売不振の理由から早期処理が適切と判断し、理事会で承認をもらい、処理したと回答した。 一昨年出版した翻訳本の在庫について質問があり、注文の都度印刷し配送する仕組みにしたので在庫の問題はないと回答した。</p> <p>2. 報告事項</p> <p>本部動向の説明</p> <p>2023年本部収支予算、ILSI Global Research Program の支部別及び内容別に提案件数について説明した。</p> <p>ILSI Japan 広報活動</p> <p>会員の皆様の勧誘用に ILSI Japan を紹介する資料を説明した。</p>
-------	---

### 【事務局】

1, 2月	なし。
3, 4月	なし。
5, 6月	6月末にて、事務局長の辻本信晴氏が味の素（株）へ帰任。現 CHP 代表 山口隆司氏が7月より事務局長を兼任する。
7, 8月	特になし。
9, 10月	9月末に事務局次長の山越純氏がキッコーマン（株）からの出向を解かれ帰任し、同社から新たに杉本勝俊氏が10月より出向となった。
11, 12月	<p>1. ILSI 本部情報</p> <p>(1) 本部理事会開催（11/20）</p>

① 理事候補選出、② 米国・カナダ支部研究プログラム、③ 各支部における科学興味分野、④ 新規ジャーナル、⑤ 地域共同プロジェクト（中南米、東アジア、ポストバイオティクス共同プロジェクト）、⑥ 本部総会

(2) 本部事務局への問い合わせ

① 理事選出の地域分割の経緯、② コカ・コーラ、ネスレ脱退後の本部推進力の発揮について

(3) グローバル総会開催（12/7）

① Suzie 追悼、② ILSI Global 理事メンバー選出、③ 本部関連活動（本部メンバー加入、団体との協力関係、各支部主要活動、科学論文領域等）、④ ILSI Bylaws 修正、Trade mark 登録、支部協力活動、⑤ 本部総会

2. 12月未付で事務局倉井真次長が出向を解かれ、サントリー食品インターナショナル(株)に帰任した。なお倉井次長担当の「日本くすりと食品機能フォーラム」の活動は、ILSI Japan ではなく別の団体が活動を引き継ぐこととなった。